

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第8回フォーラム検討会議

逐語録

(木村) それでは第8回のフォーラム検討会議を始めます。

まず資料確認です。まず、議事次第があります(F8-0)。その次が第7回の検討会議の議事録案です(F8-1)。逐語録がF8-2です。フォーラム検討計画書がF8-3です。「フォーラムに関する議論の整理」がF8-4です。「コミュニケーション・マニュアル」がF8-5です。次に、平成24年度報告書の目次案と書いてある資料がF8-6です。フォーラム計画書(案)が最後に入っていると思いますが、これがF8-7になります。以上ですけれども、いかがでしょうか。

今日の進め方なのですが、議事録確認をした後に、模擬フォーラムを実施していきたいと思います。まず、後ろのほうのスペースを使って、レイアウトを検討します。その後で、前回作ったスケジュールの中のグループワークの部分を実際にロールプレイしてみたいと思います。それが、全部含めて2時間くらいかかるかなと思います。その間は、写真を撮ったりして記録を取っておいたほうがいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。

後半は、模擬フォーラムをやった感想も踏まえて、フォーラム計画書の中身を少し拡充したいと思います。

あとは、前回までずっと検討していた「コミュニケーション・マニュアル」のファシリテーションルールの部分を、昨日から今日にかけて、竹中君が整理をしたということですので、その話を聞いて、検討していくということになります。

0. 議事録確認

(木村) ということで、まずは議事録の確認です。資料のF8-1をご覧ください。すでにメールでは送ってあると思いますが、前回何をやったかということの簡単な確認をしたいと思います。

前回は「コミュニケーション・マニュアル」と「ファシリテーターのためのマニュアル」の確認と検討ということで、特にコミュニケーションルールの確認と、ファシリテーションルールの案についていろいろ話したということになります。それが前半でした。

後半は、「フォーラム計画書」の検討と書いてありますけれども、第1回フォーラムのプログラムをかなり作りこんだということになります。

あとは、最後のページになりますけれども、「フォーラム参加者の決定に関する検討」と

ということで、首都圏住民は応募が7名であり、不足する可能性があるということで、10名を確保するというので同意をしたということ。市民の応募者が不足した場合は、応募者の属性を把握した上で、バランスをとるように事務局側から依頼を行なう方針となったということです。

その後、参加申し込みに関しては、専門家は26名、27名だったかな、まで増えたのですが、首都圏住民は7名でストップということですので、当初の想定とは逆の方向に振れています。先週もお話がありましたけれども、募集時からもう少し工夫をする必要があると。ここには書いていないですけれども、ホームページの整備もしっかりやらないといけないと思います。今回は、ホームページは準備中ですが、URLをいずれ作りますというのは書いたのですが、私に余裕がなくて何もできなかったの、それを見た人が「何だ、これは」と思って遠ざかった可能性もあると思います。次年度は、そういうことも念頭におきながらやろうかと思っています。

というのが前回の流れでした。ここまでで何かございますか。よろしいでしょうか。

1. 模擬フォーラム（第1日目の模擬）の実施

1. 1 フォーラムの検討

（木村） それでは、模擬フォーラムに向けて作業を進めていきたいと思います。F8-3が、前回作った詳しいプログラムです。第1回フォーラムのスケジュール表が書いてあります。

第1回は5月25日（土）13:00～17:00。実施内容はオリエンテーション・『「原子カムラ」とはなんだろうか?』という話。総合ファシリテーターは元気ネットさんをお願いをして、ファシリテーターは各グループのあらかじめ決められた参加者。サブファシリテーターとして元気ネットさんが入るということです。

スケジュール表ですけれども、前日は直前打ち合わせがあります。

あ、ネームプレート持ってくるのを忘れた。

—— 買って、持ってきています。

（木村） はい。では、それもありますね。開場30分前から、書類、謝金の手続き、ネームプレートの配布、くじ引きがなされます。まあ、今日にくじ引きはしません。

オリエンテーションが13:00～13:50。その中で自己紹介をします。その後講義をして、コーヒーブレイクということになります。ここまでは一通りの話なので、自己紹介は実際にやってみないと分かりませんので、今日はパスをして、コーヒーブレイク後のグループワークを模擬的にやってみようと思います。

テーマは『「原子カムラ」とはなんだろうか?』ということで、各自で「原子カムラ」と

は何かを考えてもらって、共有するということですね。最初に進め方を簡単に話して、まあ、簡単に話すを書いてありながら何を話すか全然決めてなかったのは手落ちですけども、3回のグループワークをやると。

1回目は、各自が、原子力ムラについて思うことをポストイットに書き出して、模造紙に貼る。市民と専門家で色分けをする。同じ意見であればシールを貼っていくということ。

2回目は、1回目の思いや考えをグループに残っている人が簡単に解説した上で、追加していく。

3回目は、出てきている思いや考えを整理する。似ている思いや考えをグループ化して、なぜそのようなグループが出てきたのか、また、それぞれの関係性を考えてもらう。「原子力ムラ」とは何かについて、発表することをまとめてもらうということです。

ファシリテーターをグループの中で決めて、ファシリテーターが中心になって話し合います。サブファシリテーターは基本的にサポートに徹するということですね。ファシリテーターがいやがっても頑張ってもらおうということです。

思いや考えの見える化が難しいので、分類化をサポートするために何か軸を考えておくか？ ということに関しては、ポストイットを貼る段階では市民と専門家くらいの大くりにして、3回目で参加者が整理していくという形にしようということです。

話し合いはコミュニケーション・マニュアルに則るように心がける。

お互いに名前を積極的に呼ぶようにする。まずはいろいろな人と話してみる。こういうことを心がけてグループワークをやってみましょうということになりました。

それが終わると、全体共有ということで、1グループ持ち時間10分、発表5分でやるということになってきます。

最後に振り返りで、アンケート等をやるということになっております。

あとは、レイアウトに関しては、模造紙を置くスペースを確保しなければいけないということで、やはり机を3つ並べるくらいがいいのではないかといいことですね。3グループなので3個配置するような形になるのかと思います。

流れは以上ですが、何かありますか。

—— 16:15~16:40の全体共有なのでですけども、1グループの持ち時間は10分でしたっけ。8分かける3回になっているんですけど。

(木村) ああ、8分ですね。

—— 8分のうち、発表が5分で、3分が質疑。ここは25分かかっていないですからね。

—— いいですか。グループワークの1回目に「同じ意見であればポストイットにシールを貼る」とありますが、それは1回目ではなくて、2回目ですよ。2回目に来た人が、

同じ意見であれば、ポストイットにわざわざ書かないでシールを貼る。

(木村) はい、2回目ですね。1回目はとりあえず、何でもいいから書き出して、貼っていくということですね。

—— (1回目は) 同じ意見が出てもいいということでしょう。

—— (2回目は) 同じ意見はシールで貼っていくから、違う意見は増えていくけど、同じ意見は増えない。

—— 1回目にまったく同じ意見が2人の人から出てきたらどうするのですか。

—— それは仕方がない。

—— それは貼っておくということですか。

—— 同じところに固めて貼ればいいのですよね。

(木村) ということです。

ええと、この場で検討するのがいいかどうか悩んでいるのだけど、先にF8-4の話をさせてもらっていいですか。「フォーラムに関する議論の整理」ということで、1月7日に整理をしたのですが、昨日、竹中君とコミュニケーション・マニュアルの議論をしていて、もう少し明らかにしておきたいなということで、追加をしています。

観察者の目的設定として、「ムラびと」と「市民」との協働によって「原子カムラ」を越えるという最終目標に一步踏み出すために、「ムラびと」と「市民」とのコミュニケーションの場(フォーラム)を設計し、「ムラびと」と「市民」の相互作用を学術的に記述し、「原子カムラ」を越えるための要件を洗い出す。というのがあります。

これはもう確定しているものなのですが、これを少し噛み砕いて、今回のフォーラムの設計のところについて少しご意見をいただきたいなと思ったので、全体を簡単に整理するという意味で、整理をしました。

まず、問題点があるわけですね。我々が考えている問題点は、「原子カムラ」と呼ばれるものが存在していて、この存在が正当な原子力に関するコミュニケーションを阻害しているだろうと。ここにすでに仮説が入っているのですが、ある程度こうなのではないかということです。

この問題点の原因を整理して、2つほど書いてみました。1つ目は、「原子カムラ」というものが形作られている原因は何だろうかということです。これは、ムラびとと市民の

間の認識のギャップであると考えられるということ。認識のギャップは、ムラびとの社会的リアリティや原子力問題のフレーミングと、市民の社会的リアリティやフレーミングが異なっていることから生まれるのだらうと考えます。「原子力問題のフレーミング」というのは、原子力問題をどのように考えるか、そういう構造の枠組みということなのですけれども、そういうことに差がある。これがムラを形作っているのだらうということです。

さらに、原因 2、「原子カムラ」が形作られるのは、ムラびとと市民の相互作用が原因であると考えられるということですね。お互いに、相手の認識は分からない。すると、思い込みによって相手の認識を勝手に作り出して、そうであると思い込む。その思い込みの認識によって、お互いに、自分から心理的な壁を作ってしまう。これが「原子カムラ」という集合を作り出す区分線（境界）となると。分かりにくいかもしれないのですけれども、お互いに相手が何を考えているかが分からないので、相手の認識を勝手に作って、相手はこうだろうと思って、だから自分は相手とは接せないと勝手に思い込む。それによって自分の中で境界を作ってしまうと、相手とのコミュニケーションをしなくなってくるということがお互いにあると、境界ができていないのではないか、ということです。

つまり、原因 1「実際にギャップがある」ということと、原因 2「ギャップがあるということはなんとなく皆分かっている」ので、勝手に相手の像を作りあってしまう、そのギャップを埋める努力を阻害している」ということが、「原子カムラ」という存在を作り出している。さらには、その存在によって、正当な原子力に対するコミュニケーションを阻害しているのだらうと分析をしてみました。

そうすると、この問題点、原因を踏まえて、どうやってこのムラの境界を越えたらいいのかという話になります（課題）。

まずは、①誤解なく相互理解する。相互理解というのは、相手の考え（意見・感情）を誤解なく認識すること。少し文章が変ですが。②相互理解の結果、または、そのプロセスにおいて、相手に関する思い込みの認識と実際は異なることを認識する。③相手に関する認識を変容させる。これがリフレーミングです。相手に対する認識の型枠がフレーミングで、リフレーミングはそれを変えるということです。リ・フレーミングです。相手に関する認識を変容させるということが必要なのではないかと。相手に対する認識を変容させることによって、この境界がなくなる方向にリフレーミングさせていければいいなということ、まずは目的を設定したいと思いました。

この課題に対して現状はどうなっているのか。①を実施するツール、これは誤解なく相互作用をするためのツールという意味ですけれども、これは「コミュニケーション・マニュアル」に整理しているということになります。これが実際にできるかどうかはフォーラムでやってみないと分からないのですけれども、少なくともそのツールは整理したということ。

①の結果、②「自分の相手に対する思い込みの認識と実際に相手の考えていることは違うということ」を認識する」のは、おそらくできるのだらうと思います。ちゃんと誤解なく

相互理解できれば。

ただ、自分の思い込みの認識と実際の相手の認識が違うということが認識できたところで、③「相手に対しての認識を自分の中で変容させる」かどうかは、まだ学術的には検証が必要な段階ということです。学問的には、ここに関してこうですというような結果がおそらくない。

以上を踏まえて、今回のフォーラムの目的としては、「相互理解（もしくはそのプロセス）は各々のリフレーミングを誘起する」という仮説を設定して、これを検証すること、と書いてみました。順番的にはそういうことをやったほうがいいのかなと思っています。

相互理解をしたところで自然にリフレーミングが発生するのであれば、相互理解を中心としたフォーラムを組み立てていけば、自ずとリフレーミングができるということになります。ところが、相互理解を中心としたフォーラムの設計だけではリフレーミングは起こらないという結果が出てきた場合には、相互理解をした上でどうやってリフレーミングを促すのかということを検討しなければいけないということになってきます。

こういうところを考えると、今回のグループワークの設計に戻っていくときに、昨日竹中君と話していたのは、1回目、2回目のグループワークは個としての人間がどういうことを考えているのかを出していく場なのだけど、3回目のグループワークはその多様性をまとめる場であると。まとめてしまって、多様性を見えなくしてしまう効果があるのではないかという議論が実は出ていたのですね。この点について、今日実際にやってみて、ご意見をいただきたいなと思っています。なので、フォーラムに関する議論の整理（追加の整理）を自分なりに作って、提示したという流れになっております。

ということなのですけれども、学問的な話なのでややこしいのですけれども、何か不明な点があれば、ここで時間をとって説明をしたいと思えますけど、いかがでしょうか。

—— 多様性が隠れてしまうというのはどういうことなのでしょうか。

（木村） つまり、似たような意見であっても、その背景にあることは異なっている可能性がある。だけど、似たような意見だということでもまとめてしまうと、その背景が異なるということに気づかないことになるのですね。

だから、相互理解を深めるためのまとめであればいいのだけれども、それをある種ステレオタイプみたいにまとめてしまう、簡単なラベルを貼ってしまうだけだと、もしかすると相互理解を阻害してしまう可能性があるのかなと思ったのです。

深いところまで見ないで、表面的に出てきたところの類似性だけでまとめてしまうと、実際は違うことを思って同じ表現をしていたはずなのだけど、その「違うことを思っている」ということが分からなくなってしまう可能性があるということです。

—— そうすると、どうしたらその違い（背景）を表面に出せるか、ですよ。

(木村) そうなのです。それを昨日悩んでいたのですね。

—— 言っていることはよく分かります。

(木村) 実は、数年前に、まだ竹中君もいなかったときに、最初に私が東京で高レベル廃棄物のワークショップをやったときがあったじゃないですか。あのときは、1人1枚ずつ作って、1人1人に表明させた。あれは、実はこういうことを念頭に入れていたのですね。

グループの中で1つのものを作るというのは、スキルとしてはすごく大切なのだけれども、それをやることによって、その根本にあるものを隠して1つのものを作ってしまうので、いろいろな意見を引き出すという場面では使わないほうがいいなと私は思ったところがあって。それで個人として出してくださいと設計した覚えがあります。

あのときは本当に個人で全部やってくださいという感じで、それでよかったのですが、今回はどう設計するかなって、ちょっと思ったのですね。

—— 例えば、複数のポストイットに出てきたキーワードみたいなものが出ますよね。その特質的なものを取り出して、このキーワードに対する20人のそれぞれのご自分の背景をもう少し丁寧に書いてもらう。そうすると、もしかしたら大きな違いが出てくるかもしれませんね。言葉にするとひとつなのだけど、そこで背景の違いが見えてくるんじゃないですか。

(木村) そこまでできるといいなというのはあるのですよね。

—— それをどこかに入れられると面白い。そこにいた人も違いを認識しますよね。同じキーワードなのだけど、背景がこんなにも違うということに、初めてそこで気がつくというか。

前回設計したフォーラムの動きではそこは見えないですよ、確かに。

(木村) 見えないのです。だから、それをどうしようかなと思っていて。参加者の中でそのキーワードについてどう思っているかというのを考えるということも、面白いのですが、何かもう一工夫できないかなって実は思っていたところなのですよ。

—— でも、3回目の集約というのは、「協働作業」を大切に集約であって、このテーマの深掘りのためのものではないのですよね。だから、何を大事にするかで3回目は変わるのかなという気がします。

第1回フォーラムで少し親しくなってもらったほうが、第2回以降でより本音の話がで

きるだろうというのがあって、親しくなることを大事にしたと思うのですけど。

(木村) そうですね。最初はとりあえずいろいろな人と会って話をしてみようというのが目的だったので、こういう設計にしたのですけれども。

これが逆に、無理やりリフレーミングを誘起させるような取り組みになっているとよくないかなと思って。本当はリフレーミングというのは、自分たちの気付きで行なわれていくものなのですけれども、その気付きをこちらからあえて型をはめたような形で誘導をするというのは良くない。

となると、誘導をしないように、でも整理をして発表できるような形にもっていくというのは、実はすごく高度な話だな、というのがあったのですよ。竹中君、何かフォローの言葉はありますか。たぶん、こんな話でしょう。

(竹中) そうですね。

(木村) 昨日、コミュニケーション・マニュアルを見直していたときに、ファシリテーションルールは、あくまでも相互理解をするためのファシリテーションとしてどういうことに気をつけたらいいかというところに限定をして書くようにしたのですよ。というような経緯がありました。

ということで、コミュニケーション・マニュアルに関しては、最後にそういう観点から話し合ってもらおうと思いますけれども。

とりあえず今日、グループワークをやってみて、今話したような目的という観点から、どういうところに気をつけなければいけないか、みたいなものを整理できたらいいかなと思っています。

すみません、誰かが発言しようとするのを阻害しましたか。

—— 今、竹中君がそうですねって言ったけど、竹中さんはどういう過程でそこに行きついたのかなと思って。

(竹中) 3回目の作業というのは、専門家のポストイットがあって、市民のポストイットがあって、このように見ることができます、と整理してみました。

これを見たときに、「専門家と市民は、結構同じ考え方をしていますよね」とまとめて、「リフレーミングが起きました」といったときに、それが本当に正しいのかというと、ちゃんとばらけている専門家もいれば、ここだけの意見を言っている専門家もいるはずで、1人1人は違うはずなのですよ。それを、皆の意見を一緒くたにして分けることによって、1人1人の違いが分からなくなってしまうのではないかな。

どういう考えでそれぞれの意見が出てきたのか。1人の人が、いろいろ考える過程があっ

て、こういう意見が出ている。こういう整理の仕方をする、この人のことはとてもよく分かる。だけれども、まとめて整理をしてしまうと、1人1人の特徴は分からないまま、分布だけ見えるというような感じになってしまう。

そうしたときに、リフレーミングは起こるかもしれない。ただし、これは相互理解につながっているのかな、というところに少し疑問を持ったんです。

—— つながっていないですね。相互理解にはなっていないですね。意見が一緒なだけで。

(木村) そうなのです。しかもその意見も、表面的に出てきたものが一緒なだけで、根本的なところから理解しているかという、そうではないなというのがあって。そこが気になったのですね。

ただ、こういう深掘りは、やはりしっかり時間を取ってやらないと、無理なので。

—— 第1回からそれをするのですか。

(木村) どうですか。でも、第1回からいきなりこんなことをやったら、こわいですよね。

あと、昨日なぜこの話になったかという、ファシリテーションってそもそもなんだろうねという話をしていて、いろいろ調べて、その中で、ファシリテーションには4つのスキルが必要です、みたいな話が出てきたのですよ。

ちょっと書いて紹介しておきましょうか。ホームページから見つけてきたのですけど。

1つは「場のデザイン」というスキルが必要なのです。これは、場をつくり、つなげるというスキル。次が、もう私には全然言葉の意味が分からないのですけれども、「対人関係」のスキル。これは、受けとめ、引き出す。次が、「構造化」のスキルで、かみ合わせ、整理する。最後に、「合意形成」。これが、まとめて、わかち合う。

場のデザイン：場をつくり、つなげる

対人関係：受けとめ、引き出す

構造化：かみ合わせ、整理する

合意形成：まとめて、わかち合う

こういう4つのスキルが必要だと書いてあるのですね。これは、昨日ファシリテーション協会のホームページで見つけて、まだ私も読んでいないのですが、「ファシリテーション入門」という本の中にあっただけです。

「場のデザイン」というのは、場をどうやって作るか、どういう人たちをメンバーに入

れるかとか、そういう話です。

「対人関係」というのは、どうやって相手の意見を受け止めて、相手の意見の根幹を引き出すかという話。ここは、多様性を広げていくという話ですね。個人個人の意見をいかに引き出していくかという、どちらかというオープンエンドな話し合いのスキルなのです。

「構造化」というのが、今度はかみ合わせて整理するで、議論をちゃんと議論の形にして、整理をしてパターン化、分類化をしていく。そういう議論です。

「合意形成」というのは、それで何か 1 つのものを作って、それを共有していくというものです。

どうも、こういうファシリテーションとか、このスキルを見ていたときに、最後の目標がやはり「合意形成」なのですよね。何かものを作って、それで一步進めていきましょうというのが、こういう場でよく提案されているところの、ファシリテーションの最終目標になっている。

私たちの目標は、少し違うのですよね。合意形成ではなくて、むしろこの辺（対人関係、構造化）が最終目標に近いところであるので。全部を入れるとおかしくなるよね、という話をしていました。

特に、「対人関係」が発散タイプ的话题をすとしたら、「構造化」はこれを収束させていく、こういう動きをする。その構造化をやっていくときに、ファシリテーターとしては、合意形成という目標があれば、当然そうやって構造化をして、重要な課題を見つけ出して、それについてもっと特定していくというのが確かに必要なのだけれども、今回の最終目的は必ずしも合意形成をすることではないので、そうするとこの「構造化」をかなり注意して使わないと危ない。なんだか変に、その場でまとまった意見が言えないと駄目だみたいな雰囲気が出てくるように「構造化」を使ってしまうと怖いね、という話を実はしていました。

最初はファシリテーションルールの中にこの 2 つ（対人関係、構造化）の要素を入れていこうかという話をしていたのですけれども、ちょっと違うねと。「構造化」の「かみ合わせ」ぐらいまでかな。いや、かみ合わせも意味が違うから、やはり「対人関係」だけだね、となって。

ただ、もうひとつ、話し合いがかみ合うようにファシリテーションをするというのは付け加えましょうということで、このコミュニケーション・マニュアルの 7 ページに、「うけとめる、引き出す、誤解なく認識する」という 3 段階を入れたと。そういう経緯が実はあります。

「構造化」とか「合意形成」のところでも、当然ファシリテーションのルールとかハウトゥはたくさんあるのですけれども、これは今回は入れていないのですね。そういう感じで、昨日議論がなされまして。

そうすると、今回のグループワークの 3 回目で、集約化をさせると、なんとなく話題は

回っていくのだろうけれども、変に方向付けしてしまうような作業になっていると怖いね、というのが昨日の議論だったのですね。

—— 「構造化」というのは、今のお話だと「まとめる」みたいになっているけども、言い換えるとこれは、「見える化」じゃないかと思うのだけど。

(木村) そうなのです。見える化です。
ただ、見える化することの弊害があるという話ですね。

—— どうして？

(木村) 見えなくなるものがあるということです。

—— 言っていることはすごくよく分かります。

—— 見える化をするときには、割と単純化する場合がありますよね。そういう中で落ちていくもの。

(木村) そうということです。実は見える化をすると、見えない化をしているのです。要はインパクトをつけているから。

—— もちろん、見える化の段階で、見えなくしている障害物を取り除いていくから、その取り除かれたところに今心配しているものがあるだろうということを言っているのだと思うのだけど。でも、それをやらないと、いつまでたっても見えないわけで。

(木村) だから、見える化する方向性を誘導しないようにしないといけない。そのスキルが大変だなというのが、昨日思ったのですね。

—— もしかして的外れなことかもしれないけど、今回のこの調査で、市民と専門家の方に集まっていたいてこういうことをするのだけど、コミュニケーションとかファシリテーションの専門家になってもらおうと思っているわけではないですよ。

(木村) そうです。

—— コミュニケーションやファシリテーションの専門家だったら、今の話はとても大事で、だから私たちにとってもとても勉強になるのですけど。この研究は、ひとつの手段と

してコミュニケーションやファシリテーションが、市民の合意形成とかそういう部分で大切だから、ひとつの話題にしているのもあって。今回集まっていたいただいた 10 人 10 人に、このスキルをアップしていただこうとしているわけではないですよ。

(木村) ではないです。

—— だから、もしかしたらここまでやらなくてもいいのかなと今思ったのですが、どうなのでしょう。私たちはコミュニケーション、ファシリテーションのことをずっとやってきているから、ここに行きついちゃったけれども。

(木村) でも、ある程度のルールとか構造化をしていかないと、相互理解できないと思うのです。ましてや、その中でファシリテーションをして、皆の意見を聞くというのは、何のルールも知らないと、できないですよ。

—— できない。その手段なのですよ。

(木村) 大学の授業でも私は学生にファシリテーターをさせたりしますが、やはりファシリテーターをやると一番勉強になるのですよね。皆の話をきちんと理解するという意味では、すごくいい勉強になる。でも、たぶん高レベル廃棄物のワークショップなどでいろいろ経験されていると思いますけれども、ファシリテーターをやっている人がこのルールを分かっていないと、全然意味がないものになるのですよね。それも一理あって。

なので、このルールをマスターしてくれ、ではないのだけれども、こういうことがあるよというのは認識してもらって、その上で話す、くらいでいいかなとは思っているのですよね。

—— だから、第 1 回フォーラムのグループワークでやろうとしていることが、ここまでやらないと認識できないのかということですよ。

(木村) 実はそれで、竹中君と、3 回目はまとめをやるグループとやらないグループに分けて、効果を比較すると、この仮説が検証されるひとつのデータが取れるよねという話をしていて。これをやりながら、実際にフォーラムの方向性も決めていかないといけないかもしれないね、みたいなことは言っていたのです。

—— 全然関係ないかもしれないのですが、深掘りの話なのですが、やはり見える化のところでは深掘りはできないと思うのですね。

何か 1 つテーマがあって、これについて私はこう思ってこうです。こう思ってこうです

って。いや、私はこう思っているんですよ。個人を伸ばして行って、この違いを認識するというのは駄目なのですか。そうすると、相手が何を言ったか分かるし、自分も自分の言っていることが、あれ、自分で言っていて途中でおかしいなと思うこともある、整理もできる。

ただ、1つのテーマだけしか深掘りできないので。それがこの目的にあっているのかどうか。たぶん、出てきたポストイットの中のひとつですよ。そんなに深掘りできるテーマなのかどうかも分からないかなと思って。それがこの話題にあっているかどうかも分からなかったのだけど。

(木村) いや、ひとつのやり方かなという気はします。

—— 見える化でやるなら、そうかなと。そうすると、個人の背景も見えてくる。でも、そんなにできるかしら、そんなにいくつも答えられるかしら、というのものもある。

—— 私は、ファシリテーターを育成するプロジェクトでもないのだから、あまり凝りすぎるのはどうかなという気がするのですけれども。

日常の会話でも、人とコミュニケーションすることによって、自分の気がつかなかったところに気づかされますよね。

先ほど竹中さんが、個人個人にそれぞれ意見があって、それをまとめるのはいけないと言っただけでも、むしろ、そういう個人個人の意見が一致するわけがないのですよ。10人集まれば、10人とも言うことは違うに決まっているので。

だけど、1人で考えるとどうしてもものの見方とか考え方が偏っているけれども、集まって皆の意見を聞いてみると、ああ、そうか、そういう見方もあるな、ということでお互いに気づかされていくわけだから。

だから、そういうグループ討議を通じてまとめるということは、とても意味のあることだと思いますよ。結果的に、専門家と市民が同じじゃないかというところにたどり着いたとしても、それはものすごく大きな意味があって。

それで個人の分布が消えてしまうというお話でしたが、それは消えるに決まっているわけですよ。消えなかったらグループ討議をする意味がない。

(木村) いや、それは違うのですよ。消えてしまうのは意味がないのですよ。グループ討議をする目的によります。グループ討議をする目的が、何かひとつのコンセンサスを得るためならおっしゃる通りなのですけど。

—— 一般市民のものの考え方と専門家のもの考え方とどういふ考え方の違いがあるかというのは、あまりミクロに1人1人の考え方を見ていったら違うに決まっているので。

専門家同士でも、一般市民同士だって違うに決まっているわけだから。あまりそういうミクロな違いに入り込むと、もう無限大に違うという話が出てくるだけで。それをグループ討議してマクロに見るところにこういうコミュニケーションをやる意味があるのではないのですか。

(竹中) ええと、実験という言い方をして申し訳ないのですがけれども、今回のこれを実験だと考えたときに、ミクロなことをやっているうちにリフレーミングが起こるのか、マクロなことをやらないとリフレーミングが起こらないのかということ、実験によって明らかにしたいのですよ。

—— 個々人の話を聞くだけだったら、1人ずつ個室にあつめて、あなたはどうか考えているのって聞けばいいのでは。

(木村) いや、お互いにその人が何を考えているのかを知り合うところでリフレーミングが起こるのか。それとも、それを知った上で、次の新しい構造を一緒に作りましょうというところでリフレーミングが起こるのか。その差を見たいということです。

(竹中) 当然リフレーミングを起こすことに意味があるので、最終的にそれを起こすことは問題ないのですが、それを1回目からやってしまうと、1人1人のちょっとしたミクロな相互理解によって変わったのか、最後にドンと出したものによって変わったのか、というところの検証ができなくなってしまうので。できれば段階としては、ミクロなものを少しずつやっていって、あとのほうで大きなものを作って、後々のインタビューでどこで変わったかというのを明らかにしていきたい。

—— どこで変わるのか、ということを見る意味があるのですか。

(木村) 学術的には価値はあると思いますね。

—— どうして？

(木村) やられていないし。それから、もしミクロな部分でリフレーミングが起こるのであれば、必ずしもグループ討議は必要ないのですよ。その人が語ることを聞けばリフレーミングが起こりうるなら。

—— もしそういう研究に興味があるのだったら、まずは集まってくる人を個別に、徹底的に頭の構造を吐き出してもらわないとまずいんじゃないですか。

ディスカッションをやっていると、他の人の話しているのを、あるいはシールを貼っているのを見ながら、もう変わっていくのですよ。ああそうか、ってその場で変わっていくから。

(木村) いや、変わっていくのだけど、そこら辺が切れないことは分かっているのですけれども、

—— どこで変わったかなんて聞かれたって、そんなの分からないと思いますよ。

(木村) いや、だからせめて、それがある程度のところで見えるように、マクロで切れるように設計をしたほうが、学術的には説明しやすいということです。

「こういう 1 セットを全部やったらリフレーミングが起きました」と言うのは簡単だけど、そうではなくて、その中のどのプロセスまでをやれば起こるのか。ここまでだと起こらないのか。そういうことがある程度見えてくれば、他の方法もありうるということですよ。

—— だけど、これは同じメンバーを集めるわけでしょう。最初に 1 回やったときに、リフレーミングが起きちゃうわけだから。

(木村) 起きないかもしれないです。それは人によります。

—— だけど、必ず起きますよ。コミュニケーションすれば。

(木村) それがそうでもないから困っているのですけどね。

—— いや、もちろん固有差はあるだろうけど。

—— ちょっと親しく話せたということ、顔見知りになったということが、変化のひとつですよ。

本当に相手の言っていることを納得できて、自分の意見も変えてもいいと思う変化とはまた少し違うのですよね。だから、毎回変化はあると思うのですよ。親しくなってくるのですから。

そうではなくて、本当に考え方が変わったとか、まあ変えられないにしても、相手の言っていることが納得できたと。それがどこで変わったのかを知りたいわけですよ。

(木村) そうですね。

—— だから、最初から変わってはいけるのだけれども、どの時点で意見も変えてもいいと思ったか、というところを知りたいとおっしゃっているのですね。

(木村) そうです。意見の変容というか、リフレーミングという、やはりかなり大きなショックがないと、普通は起こらないのですよ。

—— だから、最初の段階では、いろいろなことを話をして、「まあ、思ったよりはいい人ね」とか、そういうことは起こる。

—— そう。

—— だけど、「そうはいつでも、心底信用したわけじゃないわよ」というのが普通じゃないですか。

—— そう。「専門家らしくなくて、親しげに話せるのね」とか、そういう変化はあるけど。難しいことを言われると、「やはり変わっていないわ、この人」とか、「難しいことは分からないよ」ってなるのではないか。ということですよ。

(木村) その辺をどうにか…。まあ正直、そもそもコミュニケーション論で、こういうプロセスを記述しないですからね。頭の中だけの話だから。そもそも記述をしないと、その記述をどうやって検証するかというアイデアがないので、どちらかという今までのコミュニケーションというのは、「1セットやりました。そういう成果が出ました。以上」というものになって、学術的価値というのはどんどん下がるわけですよ。

そうではなくて、もう少し踏み込んで分析していかないと、学問的には意味がなくて、応用価値もない。

—— 今回は、そういう1セットをやって、その後で個別にインタビューをして、あなたの認識が変わった時点はいつですか、ということ聞き取りをしますよね。中には非常に自覚的な人もいるだろうから、あのときの話し合いで自分のはっとしたとか、そこでぐると変わったというのを意識する人もいるのではないかなと思うのですけど。

(木村) それが分かればそれでもいいし。でも認識していないけど、そう言われれば最初とは何か考え方が変わったかもしれないという人がいたときに、それはなぜ、どういうきっかけで変わったのかということも深堀りをしていかなければいけないのですよね。

—— この5回のフォーラムを通して、それを期待しているわけですね。

(木村) そうです。

—— 人によっては1回目という人もいれば、5回目という人もいますよね。

—— 個人差はあるだろうなと思うけど。

—— やる内容によっても劇的に変わるのかもしれないし。

(木村) そうなのですよ。もしかしたら話題かもしれないし。だから、その辺が悩ましいのですよね。

—— ただ、(グループワークの)3回目の、ポストイットを出したものを分けてみるというのは、見えなくなる部分はあるけれども、ここでグループワークすることで見えてくる部分もあると思うのですよ。

それでももしかしたら、2回目のときに、それぞれが出したキーワードの背景を、それこそ丁寧に書いてみてまた貼りだすと、またそこで1回目とは違う、こうだろうと思っていたものとは違うものを見るというきっかけになりますよね。そういうものは必要なと思いますよね。

—— 深掘りするときはそうなりますよね。

(木村) 例えば真ん中に「原子カムラ」と書いておいて、その周りに考えたものを貼って行って、矢印をつけますよね。それで、そのレベルに足してもいいし、その意見に対してどうしてそう思うのかというのを足してもいい。そういう構造のやり方というのはひとつあるかもしれない。そうすると2回目までで、ある程度樹みたいなものができる。

—— これは私のイメージで、間違えているかもしれないけど、今回取り扱おうとしている「原子カムラ」のイメージすら、私自身も明確な定義とか、意味とか、何もはっきりしたものを持っていないわけですよ。

だから、世の中の人で、原子カムラについて議論すると言われて、明確なイメージを持っている人というのはそんなに多くないような気がするわけです。だから、考え方が変わるとか変わらないとか、そういう明確なものが本当にあるのか。

私なんかは、他の事柄でもそうなのだけど、毎朝新聞の記事を読むたびに勉強して、新しい気付きがありますよね。あるいはテレビのニュースや会話を聞きながら、変わります

ね。日々、その時点、その時点で変わっていますよね。だから、いつ変わったかと聞かれても、私自身はとても説明できない。

(木村) まあ、それはそうなのでしょうけど、それを言っていると、たぶんコミュニケーション研究はもうできないです。

—— 連続的に変わっているから。

(木村) 連続的に変わっている中で、何に注目をして、それを観測するかどうかなのですよ。それが研究だから。

—— それで、私が思ったのは、例えば今年の私の授業の受講生が 40 何人かいて、終わったときに感想を聞いてみると、「授業を受講する前、原子力に反対でした」と。「だけど、何十回か話を聞いて、今はまったく考え方が変わっています」というような話をするわけですよ。だけど、あなたはどこで変わったか、と聞いたら、それは言えないような気がするのですね。その生徒さんも、いろいろな話を総合的に考えて、変わりました。こういう説明をしてくれたんだけど。

例えば原子カムラの定義をいくつか決めて、ジャンル分けをして、私はここ、私はここって、最初にスタート時点を決めてあれば、いつ変わったかというのはできるかもしれないけれども。最初の自分の立ち位置を明確化していない限りは、変わったというのは難しいと思いますよ。だから、どこで変わるかを観測しようと思ったら、立ち位置を最初に言ってもらおうというのも手かもしれない。

よくテレビでありますよね。最初に、どちらかのグループに行ってください。プレゼンをやって、今度はどちらですか。ばーっと人が移動する番組がありますよね。ああいうのは、どこで変わったかが非常に明解で。試してガッテンもそうですね。

—— 最初のポストイット出しがそれですよ。原子カムラというものがあって、自分はそれに対してどのように感じているかというのを書いていく。その中のいくつかがそれですよ。

—— その中で、例えばあまり知らなければ、「東海村のことですよ」と書いてもいいわけですよ。自分がそういう認識だったら。考えたことがあまりなかったら。

—— 3 回目に意見を集約するとありましたけれども、他人が自分の意見を集約するとき、「本当はこっちなのに」というような意見が出てくるのかなって思ったのですが、そんなことはないですか。

—— これは、メンバーを変えちゃうから、自分が出したポストイットのところには限らない。

—— でも、全体共有があるでしょう。そこで出てくるんですよ。

—— そうですね。「自分（の意見）は今そちらに分類されているけど、そういう意味ではなくて、私はこういう意味で書きました」という意見が本当は出るといいですけど、全員がおっしゃるとは限らないですよ。

—— 結構皆さん、ちょっと違うんだけどなと思っていても、ほぼ同じだと、まあいいかと思ってしまうのですよ。

—— 昨日、実はそれをしてみました。グループ分けをして見える化をしたときに、途中で、皆さんの意見はこれでいいですか、というのを聞いてみたのですよ。でも、「それはこっち」と動くようなものはやはり出なかったのです。

—— そうですか。

—— でも、「ちょっと違うけど」というのは必ずあるはずなのですよ。

—— 同じキーワードでも少し違うニュアンスのものがいくつかあるから、それぞれ多少違うのですよ。グループであって、そっくり同じではないのですよね。

—— 例えば、イメージが違うところに入っているけど、そうか、そういうものだったのかなと思ったりして。

—— そういう分け方もあるのか、と思うこともありますよね。

—— 人から見たらそう見えるんだ、ということに気がつくことも意味があることですよ。

—— そう、そんな感じですよ。

—— でもそれを、自分の心の中で思って納得するだけではなくて、できれば言葉に出して、「私はこういうイメージとして出したのだけど、こういう分け方もあったんですね」と

言ってくれれば、差異が出るのだけど、皆心の中で、これはこう思ったけど、ああだったのね、で終わってしまうではないですか。それを出してもらうようなことがあるといいですね。

—— そのステップをどこかに入れるというのは、難しいのかな。

—— 全体共有の中で、総合ファシリテーターがそういう声掛けをして、拾う。

—— 「ありませんか」と。

(木村) でも、ありませんかと言っただけでは出てこないですよ。

—— 出てこないですよ。

—— だから私は、ご自分がここに書いたポストイットの背景を書いてみましょうと言うと、ばーっと違いが出てくると思うのですよ。

—— でもそれは、このやり方ではできないですね。

—— できない。時間がない。

(木村) 1回目は40分にするとか。1回目は20分間で意見を出すだけ出して、残り20分でその背景を同じグループで出していく。そうすれば、深堀りまでできるので。たぶん20分だと深堀りは無理ですよ。でも、そうすると3回目ができなくて、いろいろな人と会うチャンスはなくなってしまう。

—— そうなのです。たまたま似ている人同士だったら、あまり違いを感じずに（終わってしまう）。

—— どういうシャッフルにするかは決まったんだっけ。前回、考えるって言っていたけど。

(竹中) まだ決まっていないです。

—— 先生、少し話が違うのですが、先ほど、どこで変わったかというのをインタビューして分類したいとおっしゃったけど、人によって、「どこで変わったか」という表現の仕

方が違うじゃないですか。

　　だけど、ここですか、ここですか、っていくつか候補を言えば、答えやすいと思うのです。一番近いところで、それですと。どれにも当てはまらなかったら、違います、私はここですって言えるから。だから、先生が予想できるようなものをいくつか、「話題でしたか」とか。

—— 選択肢を用意するということですね。

（木村） インタビューの手法としては、それをやると誘導になってしまうのですよ。

—— じゃあ、自分の言葉でしゃべったことを、先生が分類すると。

（木村） そうです。インタビューとしては、そうじゃないとできない。分からなかったら、最初からストーリーを私が話して、どうでしたかと思い出してもらおう。

—— ちょっと違うけど、まあいいか、これ、ってなっちゃうから駄目なのですね。

（木村） 駄目なのです。

—— 3回目はグルーピングをするでしょう。最初に貼った意見が、「私、変わったんだけど、それを書き直させてくれ」というのがないと、考え方が変わったかどうかは分からないのでは。測定できないですよ。

（木村） いやいや、ここで測定するのではなくて、この前後のアンケートとか、あとはその後のインタビューのときに測定するのですよ。

　　フォーラムの中で、変わったという表明をしてもらうわけではないのです。フォーラムが終わった後にインタビューをするのです。

—— でも、アンケートを毎回とるから、そこに書く方はいるかもしれないですよ。「最初こういうことだと思っていたけど、1日終わったらこうだった」と書く方もいるかもしれない。

（木村） この内容は、竹中君の修論に直結するかもしれないのだから、竹中君の中での設計として見たときに、どうですか。

（竹中） やはり、1回目は仲良くなるというイメージが強いので、そういう意味ではでき

れば3回分きたいですね。

(木村) 3回分けて、3回目も集約化をしないで、とりあえず全部書きちゃうというのもひとつの手ですけどね。

(竹中) そうですね。3回目はそんなに難しいことをしないで、でも、1回目2回目で出切っているとつまらないので、何か新鮮味を与える一工夫あれば。

(木村) 例えば、真ん中に「原子カムラ」と書いて、2回目までは思うこと考えることをポストイットに書いてもらう。これが第1層です。

3回目は第2層目を頑張って出してもらう。なぜこう思うのかという第2層目を出してもらう。そういうのはありかもしれないですけどね。

—— 同じものにシールを貼ってもらうのはやめて。

(木村) 貼ってもいいけど。第2層目を矢印でつくってもらう。

—— そうですね。ポストイットはすごく短文化しているかもしれないから、付け足しはあるかもしれない。

(木村) 1回目、2回目は出すところに終始して、3回目は深掘りをやってみる。

—— 最初の案のような、グループ化とか、発表するとかはなしで。

(木村) グループ化はあえてしないで。

ただ、発表はしたほうがいいですね。我々の班ではこういう意見が出てきて、この辺の問題について深掘りがされています、というのを説明する。

—— 非常に網羅的になりますね。

—— ただ、深掘りは、ご自分が最初に書いたキーワードの深掘りだから、自分が移動したときに自分のポストイットがなかったら、そのグループに行行って書くということですよ。

(木村) うーん、そこはもう組み合わせでしょうね。移動先にも自分の意見が出てれば、こっちでも出ているんだなということで、そこで書いてもらう。

—— 自分のポストイットじゃなくても、自分と同じ考えのものがあつたら、自分の背景をそこに書くと。

(木村) そこに書く。

結果として、「いや、そのポストイットを書いたのは私ですけど、そのポストイットはそういう背景ではないです」という意見が出るかもしれない。

—— そういう意見は発表のときに言ってもらったほうが、全体の共有にはなりますよね。

—— それか、他の人が貼っていたポストイットに対して、私は絶対この考えには賛成できないんですけど、みたいのも書くことはありますか。

(木村) 否定はあまりしないほうがいいのかな。

—— 私はちょっと違う考えなのですよねって。否定ではなくて、自分の違う考え。対立してしまう別の考えをそこに付けておくとか、そういうのはなし？

(木村) それはどうですか？

(竹中) 「原子カムラ」に対してそういうのはありそうですか。

(木村) やって見ないと分からない。

—— 例えば、「専門家集団のスペシャリスト」という意見が出たときに、市民から見て、そうではないと思ったらそうではないと。でもそれは、違う意見をポストイットに書けばいいんじゃないの。

(木村) それができるのは2巡目までにして。3巡目は、あるポストイットの中で、

—— ご自分が思っているのと同じポストイットに対しての、ご自分の背景を書いてもらう。

—— それは1つについて？ いくつもあれば、いくつもの背景を書く？

—— そうですね。でも、そんなにたくさんは書けないですよね。

—— その班で、これとこれにしましょうか、みたいにして、背景を書く？

—— 本当はこのグループ分けというのは、これについて、というのを選び出すことかと思っただけ、それをやってしまうと弾かれるものがあったりするから。

—— そう、偏りますよね。

—— なんにしても、3回目が難しいですね。

(木村) うまく全体的になればいいけど、弾かれるとショックですよ。

—— そういうものに慣れていない方は、しゅんとなるかも。

—— 自分の意見が活かされなかったように感じますよね。

背景も、平均的に出ればいいけど、そうじゃない気がするのですよ。書きやすいカードにだけ集まって。

(木村) そうですよ。そうなっちゃうかもしれない。

そうしたら、総合ファシリテーターが、3グループの発表が終わった後に、「この辺の背景が出ていないですけど、これはどういう背景でしょうか」と皆に聞くとか。

—— 書いた人に聞く。それをサブが書きとって、貼る。

(木村) それぐらいはしていてもいいのかなという気がしますよね。そうすると、少なくとも「原子カムラ」というものに対しての20人の総合的なフレーミングができるので。

「原子カムラ」がどう変わったかということは、1回目にそれをやっておいて、最後にもう1回同じことをやれば、その比較でできるので。

—— そうですね。第1回で皆さんが出したこのポストイットと背景が、第5回が終わってどのように変わっているか。変わっていたら移動させてとか、違う言葉にしてとかすれば、明らかになるんじゃないですか。

(木村) そのぐらいの、あまり消すことのないような見える化をしたほうがいいかなと思うけど、竹中君、どうですか。報告書を考えると、そう作っておいたほうがやりやすい。学問的にはすごく難しい。分析は難しい。

(竹中) まだあまりイメージできていないので、やってみないと分からないですね。

(木村) ちょっとホワイトボードに書いてみますか。

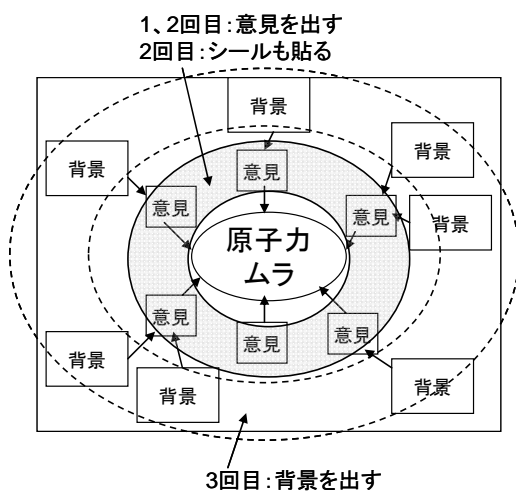
—— 東海村のことだと思っている人は、出発点すら共有できないね。

—— でも、この日気がつきますよ。ただ、応募してきた人は、東海村だと思っているも、その後、勉強しちゃうと思いますね。最初は東海村だと思っていましたけど、このお話を聞いて、原子カムラっていうのがちょっと分かりましたと。

—— ネットで検索したらいくらでも出てきますからね。

(木村) 模造紙の真ん中に「原子カムラ」と書いておいて、いろいろ思うところを貼ってもらう。2回目までは意見を貼ってもらうとか、シールを貼ってもらう。

で、3回目は、背景を作ってもらう。



—— 「週刊誌に詳しくそのことが書いてあった」とか、そういうことでもいいわけですね。自分がそう考えるようになった背景だから。

—— 新聞を読んで、私はこう思っていたとか。

—— そうですね。何から知識を得てこういうふうになっているか、というのもいいですよ。

原子カムラを形作っている思い込みというのが、何によって思い込んだかは、やはり違うかなと思うので。テレビを見て思い込んでいる人もいれば、読んでいる人もいれば、人から話を聞いて思っている人もいれば、ネットで検索した人もいるし。そういうのも面白いですよ。

(木村) こんなイメージでいいですか。とりあえず方向としては。

—— 背景を書くのは、ポストイットではなくて、もう少し丁寧に書いたものを貼っていくといいかな。

(木村) ポストイットってどのくらいの大きさですか。大きいポストイットってあるのですか。

—— 普通はこのサイズですよ。

—— それよりも大きいものもある。あるけれども、まあこれが普通ですね。

私はでも、背景を書くのは、A4の半分くらいの大きさがいいと思うのですよ。大きさの違う紙を貼っておいたほうが分かりやすいですよ。背景も同じポストイットを使うと、分からなくなるじゃないですか。

(木村) そうですね。

—— セロテープで貼ればいいんじゃないですか。

—— それをセロテープで、周りを囲むようにきちっと貼ると。で、この背景はどのポストイットから来ているか、矢印を引けば分かるので。

(木村) そうしましょうか。

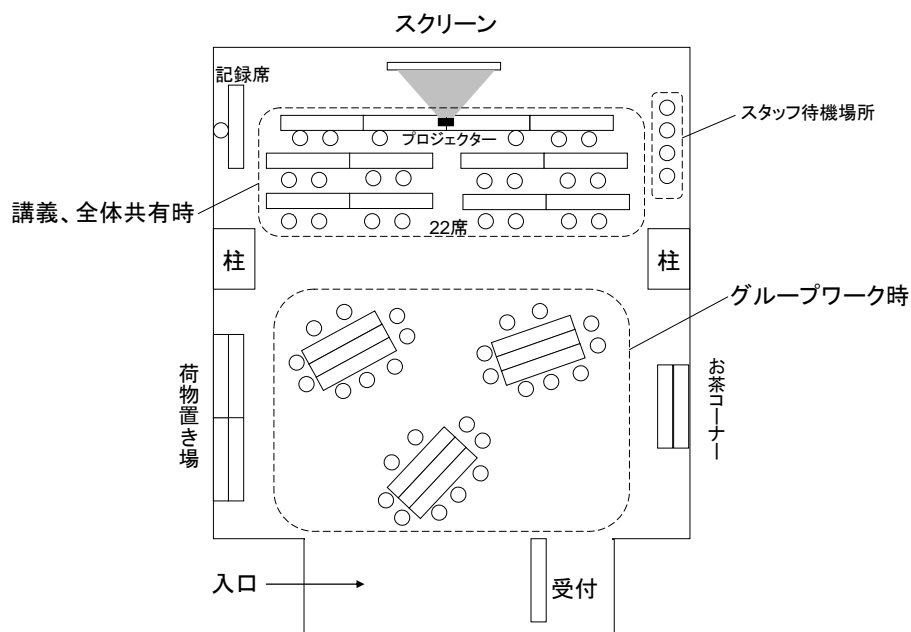
—— では、背景用の紙は、とりあえずノートを切って作りますね。

(木村) それでは、こんなイメージで少しやってみましょう。

すでに1時間半も使ってしまったのですが。では、少し休憩を挟みつつ、場所を作りましょう。20分くらいで、場所作りまで含めてやりましょう。その後、実際に模擬フォーラムをやっていきましょう。では、ひとまずは休憩です。

1. 2 模擬フォーラムの実施

(場所作りについては省略。最終的に決定したレイアウトは以下の図の通り)



【グループワーク 1回目】

※ロールプレイの発言はフォントをゴシック体にしてある。

役割：市民（市）、専門家（専）、ファシリテーター（F）、サブファシリテーター（サブF）

（木村） 1グループあたり、2人サブファシリテーターがいます。

—— そうですね。私たち6人だから。でも、（この形式だと）やることがないような気がしますけど。

—— 貼る人と、話し合いをサポートする人と。

—— 進めるサポートと見える化を分化するの？

—— でも進行は、上手かろうが下手かろうが、立ち往生しない限りやってもらったほうがいいわけでしょう。

—— 参加者からサブファシリテーターの方に、「こういうときにどうしたらいいんです

か」という質問には答えていいのですよね。

—— うん。そう書いてあった。

(木村) 「ええと、どう始めたらいいですか」というのに対応してくればいいと。

—— 席はどうしますか。

—— 市民と専門家がバラバラ（交互）になったほうがいいですよ。

—— 的確にご指示をお願いいたします。持つカードの色を、そこから気をつけて指示を。

(市 F) では市民の方はピンクのカード、そして専門家の方は黄色のカードをお持ちください。

—— で、持ってお座りくださいとか。

(市 F) お持ちになって、お座りください。お座りになる位置はご自由で構いません。

(木村) その辺りはサブがやったほうがいいですね。

—— そうですね。参加者は分からないですからね。

—— じゃあ、しっかりイメージするために、サブが「それでは始めます」と言うところから始めましょう。何が足りないのか分かるから。

では、最初からやりましょう。サブがその指示をすとなったら、やはりちゃんとやっておいたほうがいいから。

そうしたら、コーヒープレイクが終わりました。

(サブ F) では皆さん、そろそろグループワークを始めたいと思いますので、どうぞこちらのほうにご移動ください。テーブルの上に付箋がありますので、市民の方はピンク、専門家の方は黄色の付箋をお持ちください。ファシリテーター役はそちらの方ですね。よろしくをお願いします。

—— そのときに、グループの名前を、A、B、C か、1、2、3 か決めて、1 班のファシリテーターは〇〇さんです、としたほうが的確じゃないですか。

(サブF) では、1班の方はこちら、2班の方はそちら、3班の方はあちらのテーブルに移動してください。

—— じゃあ、1班とか、カードを作っておいたほうがいいのかな。

—— 模造紙に書いておけばいいでしょう。

—— サブファシリテーターは(ファシリテーターの)隣でいいですよ。じゃあ、この位置に座ってもらって。ファシリテーターは真ん中がいいですよ。

(サブF) では、ファシリテーターさんはこちらで、あとの方はお席は自由になっていますので、どうぞ好きな位置にお座りください。

私どもは、サブのファシリテーターでございます。よろしく申し上げます。では、ここに座らせてもらいます。

—— サブが両脇を挟むんでしょう？

—— 挟まないでいいかなと思ったんだけど。ファシリテーターには真ん中に座ってもらって、サブは端っこのほうがよくないですか。

—— 両側じゃ、圧迫を感じますよね。

—— でも、もしかすると両側にいらしたほうが、安心するかもしれない。

—— 安心ですよ。私もそう思った。でも、サブの間の相談ができたほうがいいかもしれない。

—— サブファシリテーターさん、ペンのことも一言言ってください。

—— ペンが足りないですね。

—— 当日はもっとあります。

(サブF) 1人1本太いマジックを持ってください。それでは始めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。では、最初に自己紹介を一言回しましょうか。

(市F) では、私からよろしいですか。ファシリテーターのくじを引かせていただきました、市民の〇〇と申します。今日はよろしく願いいたします。では、このままこちら周りで、簡単に自己紹介をお願いします。

(専) 松江から来た〇〇と申します。島根原子力発電所が一番都市に近いところでして、それでうちの親が、お前はなんでそういうところに原子力発電所を作ったんだと言われて、大変大変苦しい思いをしたんですけども、でも、松葉ガニがおいしい島根県で、松葉ガニは全国に出ていますから、今のところ原子力発電所の被害はないのかなってちょっと思っているんですけども、でも、なかなか中国電力の中で、

—— 誰か止めて (笑)。

—— 自己紹介ここでやるんですって？

—— 今、長々としゃべる役をやってみたんでしょう。

—— 最初に A4 の紙を 4 つに折って、

—— それはここじゃないですよ。それは前にやるのですよ。ここの自己紹介はどういう形式にするのか。

—— え、それってグループワークの最初にやるんじゃないのですか？

—— 違いますよ。自己紹介は最初に 30 分取ってあるのですよ。全員で自己紹介をする。

—— でも、名前も言わないのもあれだから、名前だけにしましょうか。

(市F) では、先ほど皆さんと分かり合ったので、お名前だけお願いいたします。

(自己紹介：略)

(市F) では、どうしたらいいでしょうか。

—— それは聞きますよね。

(サブF) 最初に、原子カムラということについて、皆がどう思うかというのをこちらに簡単に書いて貼ってもらうのをやりますよね。

(市F) はい。分かりました。では、お手持ちの付箋紙に、原子カムラについて思うところをお書きになって、ご自分で貼っていただくんですか？

(サブF) そうです。

(市F) はい。では、お書きになって、貼ってください。

(専) どういうことを書いて、貼るんですか。

(市F) 「原子カムラ」ということをご存知の方もご存じでない方もいらっしゃると思うのですけれども、ご存じでない方はそれに対するイメージでいいですか。

(サブF) いいですよ。自由に。

(市F) はい。自由に書いていただいて、付箋紙を貼ってください。

(専) それは黙って貼るのですか。しゃべりながら貼ったほうがいいでしょうか。

(市F) しゃべりながらのほうがいいですか。

(専) 相談しながらのほうがいいですか。

(サブF) いえいえ、自分の意見を書いていただいて、それぞれ貼るようにしますか？

(市) 何枚でもいいんですか。

(市F) 何枚でもいいです。思いついたことを自由に書いて貼ってください。

(市) ポンポン貼っていくと。

(市F) はい。ご自分の前辺りに。

(専) 自分の前のところに貼ればいいですね。

(市 F) はい。自分の前のところをお願いします。

—— そのときに、もう一度、市民の方はピンク、専門家の方は黄色をお持ちですね、と確認したほうがいいと思うのですけどね。

(市 F) 皆様、色分けなのですけれども、市民の方はピンク色、専門家の方はクリーム色の付箋紙をお持ちですか。色分けで貼っていきますので、お願いします。

—— たぶん今の言葉は、ファシリテーターは言わないから、サブファシリテーターが言わないと駄目でしょう。

—— (ファシリテーター役の人は) その日にいきなり言われてやっているのですよね。

—— そうです。意味が分かっていないかもしれないので。サブが言ったほうがいいですよ。

—— そうすると、ファシリテーターの人が、何をやらなければいけないかというのは、どこでマニュアルを読むのだろう？

—— その前にコミュニケーション・マニュアルの講義があるから、そのときに分かっていますよね。一応ね。

—— 講義がある前に、くじを引いているのですよね。

—— じゃあ、そのつもりで一生懸命聞いていると。

—— このときに、ファシリテーター役の人はポストイットを出さないのですか。どうなのですか。普通は出さないのだけど、一参加者だから、意見も出して、ファシリテーターの役割もしたほうがいいのではないかと私は思うのですけど、どうですか。

—— そのほうがいいと思います。

(木村) 第1回はそれでいいですよ。

—— 第1回からくじを引いた人がファシリテーターに徹したら、自分の意見が全然出せ

ないですよ。

—— そうですね。講義を聞いて、ファシリテーターをやって終わっちゃうから。

—— それと、意見は、1、2、3で貼るのですか。書けたものから貼っていくのでしょうか。

—— 書いたら、皆こうやって持っているんですよ。声をかけて、貼ってくださいと。

(木村) 書いて、自分のところに置いておいて、じゃあ貼りましょうってファシリテーターが声をかけてから、「私はこうです」と、それぞれ言って貼ってもらうとそれっぽいかと思います。

—— わかりました。それまでは黙って、自分で持っているのですね。

—— 貼るときに一言言ってもらったほうがいいですよ。

(木村) そうしないと、記録が大変なので。

(サブF) それでは、先ほども申し上げましたが、市民の方はピンクの付箋、専門家の方は黄色の付箋にお書きください。いくつでも書いていただいて結構です。書いたものは、とりあえず自分のお手元に置いておいてください。あとで、皆さんが書き終わったときに出示してもらうようにしましょうね。

(記入)

(サブF) では、だいたい皆さんが書き終わったら、1枚ずつ出していただいて、こういう意見ですって、貼るようにしますか。

(市F) わかりました。皆さん、書けたでしょうか。では、皆さんのお手元の付箋紙を、読み上げながら貼っていただけますか。

では私は、「原子カムラとは？」と聞きまして、「今まで知らない言葉」でしたと。次に、「原発のあるところ」なのかなと思いました。なんとなく「村八分」みたいなイメージがあると思いました。

では、こんな感じで1つずつ、発言しながら貼っていただけますか。そちらからお願いします。

(市) はい。私は「原子カムラ」というのは、「専門家が言っているのを聞いて初めて知りました」。「専門家の集まり」なんだなというイメージを持ちました。ムラなので、結構「上下関係がうるさい」のかなと想像しています。

(市F) ありがとうございます。では、次の方。

(専) 「原子カムラ」というのは、「マスコミが作り上げた蔑称」です。「実際にはない」と考えています。原子カムラというのは、本当のところは「原子力発電所が立地しているところだ」と考えています。

(市F) ありがとうございます。では、次にそちらの市民の方、貼ってください。

(市) 「3.11以降知った言葉」です。「範囲がわかりません」。とりあえず私は、「推進者、行政、電力会社、専門家、全て」かなと想像しています。イメージとしては、ちょっと大胆すぎますけども、「不利益なことは話さない集団」かな？ 言い過ぎかもしれませんが、イメージと実態が、私の中ではくっついていません。

(市F) ありがとうございます。では、次の方お願いします。

(専) 私は、「反対派の人がつけたレッテル貼り」だと思います。先ほどもご意見がありましたけれども、「一種の差別用語」ではないかと思っています。「専門家に対する蔑視」が含まれていると思います。「単なる専門家の集まり」のことともいえます。あるいは、「原子力発電所のことを指している」ともいえるのではないかと思っています。

(市F) ありがとうございます。では、次の方、お願いします。

(市) なんとなく「閉鎖的」な感じがあります。それから、「専門的スキルがある集団」とは思います。それから、「男性が多い。反対に女性がいないのではないか」という感じがあります。「市民感覚がちょっと少ない」んじゃないかなという感じがします。「企業人の集まり」だろうという感じがします。後ろに企業を背負っているという感じですね。「非常にプライドが高い集団」ではないかと思っています。

(市F) ありがとうございます。では、次の方、お願いします。

(専) はい。私が「原子カムラ」と聞いたときに最初に思ったのは、「原子力、放射線という言葉がつく職業の人」というイメージです。私自身は放射線医療というところで、全

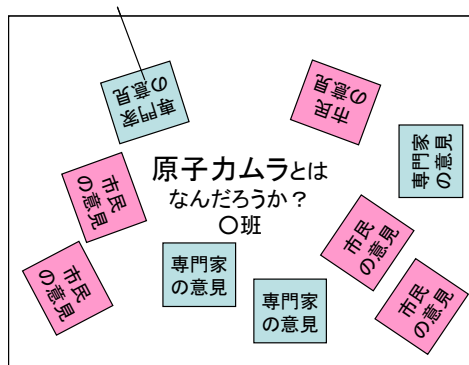
然事故と関係ない職業なのですけれども、原子カムラの人と言われるときがありまして、「馬鹿にされている」ような気がするというのが私の思いです。

(市 F) ありがとうございます。こんな感じでいいでしょうか。

(サブ F) いいと思います。

—— ちょっといいですか。ポストイットの向きはこれでよろしいでしょうか。(放射状になっている。)

ポストイットはそれぞれ自分の方向に向けて貼っていた



1回目に行なった方式

—— 順番は結構よくないですか。ずっと市民が続くよりも、交互になっていて。だからなるべくバラバラに座ってもらったほうがいいですよ。

—— それと、向きはこれでいいですか。

—— 中にいる人は、そんなに気にならないのですよ。ただ、(発表時にホワイトボードに)貼ったときには確かに見にくいですよ。

—— でも、動かすでしょう、3回目に。

—— とりあえずはこれでよろしい？

—— ただ、次の人が回ってきたとき(2回目)に、見にくい感はあるかしら。どうですか。

—— その辺が重なっているの。

—— ああ、1つずつバラバラに貼ったほうがいいですね。

—— だから、貼るときに説明すればいいんだ。

—— 見やすさを考えて、貼るときに、1枚ずつ分かれた形で貼ってもらおうと。例えば2列にさせていただいても結構ですし。

—— 重なるように貼ったら、注意してくださればいいのですよ。

—— でも、それはサブが直すのか。本人にやらせるのか。どうなのですか。

これを次に来た人が分かるようにささっと見やすく直すか。本人にやらせると、貼り方がバラバラになると思います。

—— 「次に班が変わりますので、見やすさを考えて、少し動かしますね。」とか、そういう感じでいいですか。

—— 隙間を作っておかないと、後で（2回目のグループワークで）貼れないですもんね。

—— そうですよね。

（木村） 基本を崩さないように貼りなおすのでしょうかね。

—— でも、1回目のメンバーは、貼り直した最後の画面を見てから離れていったほうがいいと思うのですよね。

—— じゃあ「今、ちょっとだけ貼り直しますね」って言って、やるとか。

—— でも、それなら、貼るときに「こうやって貼ってください」と指示したほうがよくないですか？

—— 1枚ずつはつきり見えるように、少し隙間を開けて貼ってください。2列になっても構いません。自分の側に向けて結構ですので、貼ってみてください」と言えば、だいたいこういうふうにはできるでしょうね。

—— 今、どのくらい時間がかかったのかな。

(木村) 15分くらいです。

—— こんなにスムーズにはいかないですよ。もうちょっと時間かかるでしょう。

—— 今、皆きれいに流れが分かるように1枚1枚しっかり書いてくれているじゃないですか。でも、話してはいるのだけど、ポストイットには書いていない、抜ける場合があるじゃないですか。その対処は誰がするのですか。

—— それはサブですよ。ご本人がポストイットにないことをおっしゃっていたら、それを書き足して、これもですね、と確認して貼っていかないと。

—— 例えば、「反対派の人がつけたレッテルですよ。それは差別用語的ですよ」と言ったときに、「差別用語的」の部分は書いていなくて、口だけで言うかもしれないですよ。そういうのを拾うと。

—— 今おっしゃったことを書いていただけますかと。

—— 本人に書いてもらうのか、サブが書くのか。

—— 例えば、「差別的ニュアンス」とサブが書いて、「こういうことでよろしいですか。ここに付けておきますね」という感じ。

—— そのほうがスムーズですね。

—— そうですね。それも書いてくださいという時間がかかるから。サブは2人いるのだから、話の内容をよく聞いて、抜けているなど思う言葉があったら、すぐ書くようにしないといけないですね。

—— 言いながら貼っていくときに、抜けていた分があったら、サブが書いて、その場ですぐに足すと。

—— 本人に確認して、足す。

—— 「これでよろしいですね。じゃあ、貼りますね」と。

—— そうしたら、「いや、『ニュアンス』じゃない！ 差別用語そのものだ！」と言うかもしれない。そうしたら、書きなおして貼る。

—— この流れの順番に対しても、きっとそうなのですよ。順番が違っていたら、貼り替えていただく。

—— いや、順番はあまり変わらないと思います。

—— 言いながら貼るから、順番はたぶん一致しますよね。

—— 先ほど、着席の順番がたまたまよかったよねという話があったけど、やはりある程度ばらけてもらったほうがいいのですか。

—— ファシリテーター役がそうおっしゃったんじゃないかな。

—— いや、「適当に座ってください」と言ってしまったのですけど。何も知らなかったら、「どういうふうに座ったらいいですか」とサブに聞くとします。

—— 聞かないと思いますよ。座れば良いと思っているから。だから、やはりそれはサブが言うか、座ったときに交換してもらおうとか。順番に意見が出たほうがいいですか。

—— では、「なるべく互い違いに座っていただけますか」みたいに言うと。座って、付箋の説明まではサブがするということですね。

—— 名札の色と付箋の色がリンクしているといいですよ。

—— そう。座る位置も、「なるべく市民と専門家が交互に座ってください」と最初に指示したほうがいいんじゃないかな。専門的な意見ばかりが先に出ると、それを聞いているほうが影響される場合もあるから、交互のほうがいいですよ。

—— そうなのですよ。

—— それで、1巡した後、「今、ご自分の意見を貼っていただきましたけど、もし追加がありましたら」というのが必要だと思うのですよ。書いているときはイメージしなかったけど、人の意見を聞いて、ああ、そうだ、忘れていたけど、こういうこともあった、というのが出てくる可能性もあるから。だからその時間をとって、追加があったら貼っても

らったほうがよくないですか。

(サブF) では、まだあと 2、3 分ありますから、これを見て、また追加があったら貼ってもらおうようにしましょうか。

(市F) はい。では、今、皆さんの意見を見て、自分のご意見に追加があれば、今ここで書いて貼ってください。

その際は、発表ではなくて、そのまま貼っていいですか。順番に言ったほうがいいですか。

—— 追加があったら手を挙げていくと。

(市F) では、プラスがある方は、付箋紙に書いて、手を挙げてください。
では、どうぞ。

(市) 「マスコミがよく使う言葉」だと思います。

(市F) ありがとうございます。では、次の方。

(専) 「3.11 後にたくさん使われるようになった」と思います。

(市F) ありがとうございます。

(サブF) では、だいたい出し切りましたか。

—— そのときに、そうか、「マスコミが作り上げた蔑称」という言葉があったら、「マスコミがよく使う言葉」はそこに重ねて貼るのでしょうか。まあ、「蔑称」と「よく使う言葉」は違うけど。

—— 蔑称まではいかないんですよね。

—— そういうときはどうなのですか。

(木村) 別に書いてもらったほうがいいですよ。全部出したほうが。

—— 最初は全部出したほうがいいですよ。だって、背景が違うかもしれないから。

—— そうですね。まずは自分の言葉を出せばいいですよ。

(市F) では、そちらの方。

(専) 「前近代的」な感じがします。

(木村) ちょっといいですか。たぶん、話したイメージが分からないものがあるかもしれない。今の「前近代的」は私には分からなかったの。そういうときはどうしましょうか。

—— その場で聞いたほうがいいですよ。

—— そういうところこそ、サブではなくて、メインのファシリテーターではないですか。

—— それはファシリテーターですよ。

—— それはどういう意味ですか、って振る？

—— では、もう1回ロールプレイしてみましようか。貼るところから。

(専) 「前近代的」な感じがします。

(サブF) 皆さん不思議な顔をしているので、ちょっと聞いてみて。

(市F) はい。ありがとうございます。

前近代的な感じというのは、よく分からないのですけれども、どんな感じなんですか。

(専) ここに書いた蔑称と同じでして、ムラというのは、村とか、ど田舎とか、そういう感じの古いイメージがして。それで、村には村長がいて、村八分とか言われるような、社会的な古い因習が残った、そういう組織のような感じがします。あまりいいイメージではないです。

(市F) いいイメージがないということですね。

(専) はい。そういう名前に聞こえます。

(市) 今のを聞いて、もう1個追加が出たのですが。

(市F) では、お願いします。

(市) 「しがらみがある」。

なんか、聞いているとどんどん出てくるのだけど。

(市F) 「前近代的」を受けて、「しがらみがある」と思ったのですね。ありがとうございます。

(サブF) そろそろ交代の時間なので。

(市F) そちらの方、何か、

—— しゃべっているうちにだんだん出てきました、というのがあるでしょう。2回目に入ったときは、これを見て、しゃべらずに何か書くのですか。

—— いや、2回目はファシリテーターが簡単な説明をするのですよね。

—— ファシリテーターではなくて、残った人が誰かしらいるので。

—— 残った2、3人が説明するわけだ。

—— そうすると、浮かんできたことを全部ここで吐き出さなくても、時間で切って、また次のところでそれを書いてもらえば、また2回目もできますよね。

—— だから時間になったら、ファシリテーターの人かサブの人がそれを言ったほうがいいですね。

例えば、今私が書きかけているけど、「もう時間ですから、今書きかけているお話は、次のテーブルで書いていただけますか」と。そんな感じでいいのかな。

—— そうですよ。(それを言わないと) たぶんポストイットを握りつぶしちゃうと思うので。続きをお書きになって、向こうで貼ってくださいと言えばいい。

—— それはマニュアルを見たら分かることですよ。

—— うーん、というか、今ここで作ったことかな。

(市 F) 時間ですけど、お書きになっているみたいなのですが。

(サブ F) では、それは、今は一旦交代して、次のところでやっていただくように指示して。

皆聞いているから、やりにくいですね。変だよ。

—— でも、ファシリテーターをやってみるというところに意味があるんですよ。

—— そうですよ。全部任せきりではなくて、そう言われてしゃべってみることが大切ですよ。

—— それで学ぶのですよ。

—— 変だけれども、意味があることですね。

(木村) 1 回目は、サブファシリテーターがかなり支援してあげないといけないですね。ファシリテーターは、いきなりやっても分からないから。

—— そうすると、周りの人に聞こえるように言うのも意味がありますね。次のグループでファシリテーターをやるかもしれないから。

—— 隣に行ったら誰かがしなければいけないですからね。

—— 1 回目のサブは、かなりやっていいんですね (笑)。

—— 黙ってちゃ駄目なんだ。

(木村) たぶん黙っていると何も進まない。例えば、ぼかんとしたときに、「今ちょっと分かっているみたいだから聞いてみましょうか」とか。

あとは、サブファシリテーターは最初に、「ファシリテーターをやるのは皆さん初めてでしょうから、かなり私たちのほうで口を出していきますけれども、そういうのを見て、徐々にファシリテーターの役割を覚えて下さい」と言うとか。

例えば、それこそ言葉が分からないような雰囲気的时候は、周りを見て、確認するのは、ファシリテーターが本来やらなければいけないのです、というのを少しずつ覚えていってもらおうとか。そのくらいでしょうね。

—— そうすると、最初にファシリテーターをやる人の緊張感がだいぶ和らぐと思います。

(木村) 全部ファシリテーターがやれ、みたいになると、たぶんできないですよ。

—— それで、グループ変更のときは、ファシリテーターは変わらないんですって。

(木村) 変わります。

—— サブファシリテーターは変わらない。

—— で、何人かはここに残る。

—— じゃあ、2回目をやってみましょう。

【2回目】

役割：市民（市）、専門家（専）、ファシリテーター（F）、サブファシリテーター（サブF）
同じグループに残った人（残）

役割はシャッフルし、かつ、残った人以外は1回目の議論を知らないという前提で行った。

—— 移動の間に、ポストイットはそのまま貼り換えなくていいのですか。

(木村) これはそのままです。

—— まず、残った2人が説明するわけですね。

—— 専門家の人に専門家のことをしゃべってもらおうようにする？

—— そう言われたときに、これ（向きがバラバラ）はやはり読みにくいんですよ。さすがに。

—— それだったら本当は、やはり同じ向きで全部貼ってもらって、残った人が一旦ここ

でもう1回全部見て、説明するようにしないと駄目じゃないですか。

—— そうですよ。

—— 同じ向きにしておけば、発表時に前に持っていくときに貼りなおさなくてもいいですよ。

—— やはり1巡目から、「向きはこの文字に合わせた向きに貼ってください」と言うしかないですね。

—— そうですね。

—— 絵的には、このほうがいいですよ（放射状）。グループワークをしたっていう絵的には。

—— じゃあ、（1回目が）終わった後に貼り換えましょうか。

—— 貼り替えは大変だから、やはり最初からのほうが。

（木村） でも、こちら側に座った人は常に反対ですけども、大丈夫ですか。

—— でも、話してもらってから貼っているの。

—— それで、残った人が説明するでしょう。残った人とファシリテーターの向きがここ（文字が逆になる位置）で、説明してあげたらどうだろう。初めて見る人はまともに見たほうが見やすいですよ。残った人は、もう1回聞いているから。

—— でも、さっきみたいにささっと貼られて、残った市民が、これをまとめて言えますか？ まとめて言うの？ 1個1個言うの？

—— 1個1個全部読み上げるだけならできるって感じですよ。

—— これを読み上げるのにどのくらい時間がかかるかな。

—— そうすると、専門家の残った人は専門家の分を読み上げて、市民の残った人は市民の分を読み上げると。

—— 30 枚くらいあるわけね。

(木村) そんなに出てくるかな。

—— このくらいは出るんじゃないですか。

—— いや、このメンバーだからたくさん出たのかもしれない。

—— いや、でもあのアンケートに答えてくる市民は、このくらい言いますよね。

—— まあ、逆向きでも、誰かが読み上げてくれれば、なるほど、なるほどって分かりますよね。

—— 読んだときにすぐにシールを貼ったほうが良いと思いますよ。あとになると、どこだろうってなるから。ゆっくりと読み上げてもらって、そのときにそう思った人はここに貼っていくと。

だから 2 回目は、読み上げること、シールを貼る方法の説明から入らないと。

—— それで、せっかく市民と専門家が 1 人ずつ残ったら、市民のところを市民が、専門家のところを専門家が読むようにしたほうが良いかな。それで、「この意見と同じ意見の方がいたら、そこにシールを貼ってください」と言うのかな。

—— はい。まず、残った 2 人はこちらに来て読んだほうが良いですよ。移動してきた人はこちらに来て、聞きながら貼っていく。だから、「同じ意見があったら貼ってください」ということを先に言ってもらったほうが良いんじゃないですか。

(サブ F) この 2 人は残りますね。こちら側に移動してください。

座りました。他の人たちも来て、入れ替わって座りました。

—— このときに、新しいファシリテーターはどうするのですか。

—— 近くにいないと。

—— でもそれは、読み上げられた後に変われば良いのではないですか。

—— 同じ意見というのは、1回目にやったときにいろいろな人の話を聞いて、なるほどなと思ったものもあるじゃないですか。そういうのも貼っていいんですか。

—— どうなのでしょう。

—— 最初の自分のイメージ以外に、ああ、そうだなと思ったものにも貼っていいか、ということですよ。

—— 例えば私は「上下関係がうるさい」と書いたのですが、先ほど「前近代的」という表現が出てきて、ああ、近いなと思ったときに、貼っていいか。

—— たぶん2回目は、自分の思いと同じものがあつたら貼っていいということでしょう。

—— で、ここにはないことがあつたら、今度は書いてもらおうと。

—— 2回目はその説明から入らないといけない。

—— 2回目のほうが、最初に時間がかかりますね。

—— 2回目も20分でしたっけ。

(木村) 20分です。

—— 残った方2人は、まず、見やすいところに座ってもらおうと。

—— 残るのは2人だけ？

(木村) 2、3人だと思います。

—— 3人の場合も、読み上げるのは2人にしたほうがいいですね。

—— それは残ったときに、どちらにしますかって確認すればいいですよ。

(サブF) では、今から2回目を始めますけれども、この班に残っているこの2人に、それぞれ、専門家の方には専門家の意見を、それから市民の方には市民の意見を読み上げてもらいます。皆様は、聞きながら、このシールを配りますので、自分の意見と同じだなと

思われるところがあったら、そこに貼ってください。

市民は赤のシール、専門家は黄色のシールをお持ちください。では、お願いします。

—— 残っている人はシールは要らないですよ。

—— どうですか。

(木村) 2回目は、聞いて出てきたもので、共感できるものに貼ってもらいましょう。

—— (残った人は) 自分には貼らないと思うけど、人の意見には貼るでしょう。

—— 1回目はそれをやっていないですからね。

—— 「共感できる」という言葉が大事かもしれない。

—— 「同じ意見」というとちょっとあれなので、「共感できる」がいいかな。

(市) すみません、これ、1個しか貼っちゃいけないんですか。ぴったりだったら3個とか。

市民の人でそういう人はいますよね。

—— そのくらいにぎやかになるといいね。

—— まあ、でも1人1個ですね。

—— 1人1個というのは、ポストイット1枚につきシール1枚ということですね。

—— で、今、名前を言わなかったじゃないですか。それはどうなのですか。

—— ああ、そうか。もう1回やったほうがいいですね。

—— でも、ファシリテーターは、読み上げるのをやった後にファシリテートしたほうがよくないですか。

(木村) でも、自己紹介は最初にやったほうがいいですよ。

(サブF) では、今回のファシリテーターは、そちらの方ですね。お願いします。

(専F) よろしくお願いします。

(サブF) お名前だけは自己紹介しましょうか。

(専F) 2回目になりましたので、新しいメンバーが入られましたので、まずお名前だけ皆さんおっしゃってください。

(自己紹介：略)

(専F) よろしくお願いたします。

それでは最初に、ここに残った方から、1回目の意見をお伺いしたいと思いますので、最初に専門家の方から、

(木村) このときは、市民同士、専門家同士は固まっていますか。

—— 固まっていますがいいのではないですか。だって、貼るだけですよ。

—— 新しい意見も出てくるけど。

—— 席配置まで、最初から運営側が決めたほうがいいですか。

(木村) いや、それはよくない。

—— やりすぎなので危ないですよ。

—— 私は、2回目は別に座りたいところでもいいかなと思うんだけど、どうですか。

—— やはり交互になったほうがいいかもしれないですね。

—— たぶん移動してきて座るとなると、ぱっと座っちゃうと思います。そのときにサブが見て、席が交互になるようにしてくださいということを指示したらいいじゃないですか。

(木村) そうしたほうがいいですよ。

—— そんなの一瞬だから。座った瞬間に指示するようにしましょう。

—— たぶん1回目と2回目に言えば、3回目はそう座ってくれますよね。

—— 今、段取りの話をファシリテーター役さんがしゃべったけれども、初めての人にはそれは無理じゃないですか？

—— そう、たぶんサブが言わないといけないなと思いながら。

(専F) それでは、席が決まったところで、自己紹介をしていただいたので、1回目のご意見を、専門家の方と市民の方、それぞれからご紹介いただきたいと思います。では、まず、市民の方から。

(残市) じゃあ、読み上げればいいんですかね。

—— シールを貼るって言わなくていいの？

(専F) それで、そのときに、

—— それは参加者が言うことじゃないです。サブファシリテーターの仕事です。

—— もうお手元に配ってあるのかな、その時点で。

—— そのときに配るのですよね。

(サブF) 今お配りしたシールなのですけれども、この付箋を読み上げますので、共感できる付箋がありましたら、そこにお手元のシールを1枚ずつ貼ってください。

(残市) すみません、色が違っていいんですか。

(サブF) 名札と連動していますので、市民の方はピンクを、それから専門家の方は黄色のシールを貼ってください。

(市) 専門家の意見のところでも貼っていいんですか。

(サブF) はい、もちろんです。市民の方が専門家の方のご意見に共感された場合は、貼

っていただいて結構です。

——（黄色のポストイットに黄色のシールは）ちょっと見にくいですね。

——青があったでしょう。専門家は青のほうがいいんじゃない。

（木村）では、付箋も水色のほうがいいですね。本番は、付箋は水色にします。

——付箋も青にするのですね。

（木村）付箋も青にしたほうがいいですね。基本的に色は全部揃えたほうがいいと思います。名札、付箋、シールすべて青にします。

（サブF）では、専門家の方は青いシールをお貼りください。
では、まず市民の付箋を読み上げてくださいますでしょうか。

（残市）ピンクのを読めばいいんですか。順番に？

（サブF）はい。

（残市）では、こちらからいきます。「不利益なことは話さない集団？（イメージ）」
でも、これ、文章読み上げただけでわかりますか。これは自分のだから分かるんだけど。

——とりあえず読んでみたらいいじゃない。全部読んだほうがいいよ。だって、時間を測るのだから。

（残市）上からいきます。「不利益なことは話さない集団？（イメージ）」。2番目、「範囲が分からない」。3番目、「3.11以降知った言葉」。4番目、

（残専）この瞬間に貼っていいのですか。

（サブF）どうぞ。聞きながら貼っていきましょう。

——そうだね。それは言わないと。

（残市）「推進者（行政）（電力会社）（専門家）すべて？」。今度はこちらです。「専門

家が言っている」「専門家のあつまり」「上下関係がうるさい」。

(サブF) 共感するものがあったらシールを貼って行ってくださいね。その場でどんどん貼ってください。

(残市) 「今まで言葉を知らなかった」「原発のあるところ」「村八分のようなイメージ」。

—— 「専門家が言っている」の意味が分からなかったんですよ。どうすればいいですか。

(木村) 意味が分からないときには、手を挙げてもらいますか。

—— じゃあ、「意味が分からなかったら手を挙げてください」と言わないと。

—— 「読み上げていきますけれども、もし意味が分からないというところがあったら、手を挙げてください」と、私(サブ)が言う。

(木村) それと、今のペースで大丈夫ですか。ペース速くないですか。

—— 私は速いような感じがしたのですけれども、どうですか。

(木村) 考えて貼る時間がないかなと思って。

—— それで、意味が分かりませんと言ったと。それで、どうするか。

—— それは、グループに残った人が答えるしかないですよ。サブはそれを助けるくらい。

—— とりあえず残った市民(または専門家)の方が言って、言えなかったらサブが助ける、ぐらいですよ。読み上げている人に、もうちょっと詳しく、という感じですか。

—— そうですね。

まずはスピードですか? でも、言ってくださいと言うと、たぶんその人は今みたいなペースで言うと思う。

(サブF) もうちょっとゆっくりにしていただけますか。

(残市) はい。

(サブF) それから、途中でもし意味が分からないところがあったら、手を挙げてください。

(残市) 「専門家が言っている」。

(専) この「専門家が言っている」というのはどういう意味でしょうか。

(残市) 原子カムラという言葉を使っているのが専門家だという意味だと思います。

(木村) これは、残っている人が訓練されますね。

—— ぼさっと聞いてちやいけないのですね。

(残市) 「専門家の集まり」。次、「上下関係がうるさい」「今まで知らない言葉だった」「原発のあるところ」「村八分のようなイメージ」。次はあちらです。「マスコミがよく使う言葉」「市民感覚がない」「閉鎖的」「専門的スキルがある」「しがらみがある」「企業人の集まり」。

(サブF) 少しゆっくりにしてください。たくさんの方が貼るようなので。

(専) すみません、「企業人の集まり」に貼ってください。

(残市) 「プライドが高い」「男性が多い」。これで全部言いましたよね。はい、終わります。

(サブF) では続きを。

(専F) それでは、専門家のご意見の説明をお願いいたします。

(残専) ではこちらからいきます。まず、原子カムラという言葉は、「マスコミが作り上げた蔑称である」。そしてこの方は、原子カムラというものは「実際にはない」と考えています。

さあ、読めないみたいなことが起こってききましたけれども (笑)。

(木村) 絶対にそういうことは起こりますね。

(市) 「原子力発電所が立地しているところ」でしょうね。

(専F) なんか、これと似ていませんか。

(サブF) でも、これはこれで。

(専) これも似ていますね。3つ似ていますね。

—— 似ていませんかと言われたときに、サブが何と云うか。

—— でもそれはこのままにしておくのですよね。

(サブF) これは似ていますけれども、3回目のときに動かすのですよね。

(市) そういうときは、3枚とも貼るのですか。どこか1つに貼るのですか。

—— どうしますか。

(木村) 1個ずつ読み上げるので、そのときその1つに対して貼ればいいと思います。ああ、これは似ているから3つ一度に今貼ります、ではなくて。

(サブF) では、1つ1つにどうぞ貼ってください。

(残専) 「原子力発電所を実際に立地しているところ」。そしてイメージとして「前近代的な感じ」。

(市) すみません、「前近代的」ってどういう意味ですか。

(残専) ムラという言葉に、「ど田舎」という言葉にあるように、少し古い、そしてちょっと馬鹿にしたようなイメージがあるということです。

(市) そういう意味なの？

(サブF) あとは、因習が残っていると、閉鎖的とか、いろいろなマイナスイメージが

あるという意味でした。

(市) ああ、そういう意味なのですか。これは 100 年前とか、そういう意味ではないのですね。

(サブF) そういう意味ではないです。

—— その人が移動した先を見てしまいそうですね。帰ってこないかなって。

—— 説明に来て、って。

(木村) いたるところで皆そう思っているでしょうね。

—— こういう状況はたくさん起きそうな気がしますね。だけど、この仕組みは根本的にそれを内在しているから。皆さんのお考えになったイメージで、

—— そうなのですよ。別にかいた人が言った通りのことでもなく、この言葉を聞いて、自分にそういうイメージがあればそこに(シールを)つけると。背景が違うかもしれないというのはそういうことでしょう。

—— 背景は違うかもしれないけど、イメージで(シールを)貼っていただいて。

—— はがす人もいるかもしれないね。

(専) 私は、時代が古いということだけを行っているのだと思いました。

(市) 私もそう思った。

(市) 私は言葉が古いとだけ思っていたので、マイナスイメージはわからなかったですね。

(サブF) 書いた方は、一応マイナスイメージを含むということで書いたということです。

—— そうすると、本当はここに、「マイナスイメージ」というのを書き加えるとよかったのかな。

—— そうですね。

—— 1回目に説明したときに、サブが「マイナスイメージ」をつけておけばよかったのですね。

—— そうですね。では、今ここで、「マイナスイメージ」を加えます。

—— そうすると、もう少し詳しくなりますね。これは、1回目で説明したところですね。

—— 単に時代が50年や100年前という意味じゃなくてね。

—— でも、それは今質問されたから言葉として足せることであって、

—— いや、1回目で説明してくれていたことですよ。

—— だから、(1回目のその時点で) 足しておけるはずだったということですよ。

もしその説明がなかったら、ポストイットの言葉以上の説明はできない。

—— 今のは、先ほどそういう説明を聞きましたから、「本当はそのときに書けばよかったのですが、ちょっと付け足します」ということですね。

(残専) では次の人の意見です。原子カムラという言葉は、「反対派の人がつけたレッテルである」。こういうレッテルを貼るということが、「差別用語のように使われているのではないか」。

(市) 「差別用語」というのは、何を何から差別しているということなのですか。

(残市) それは先ほどの話では分かりませんでしたね。

(残専) そこまで突っ込まれることはなかったのです。

—— いい躰し方ですね。

(残専) 次は、「原子力の専門家に対する蔑視」。

—— すみません、今の2人の「分かりませんでしたね」と言うのはいいのだけど、そこ

—— サブは大変ですね。

(木村) サブはやることがたくさんありますね。最初はないと思ってたけど。

(残専) 一方で、蔑視ではなくて、「単なる専門家の集まり」という意味で使われていたり。原子カムラという言葉は「311 の後にたくさん使われるようになった」。また、他の意見として、「原子力発電所のことだと思う」。

こちらの方は、原子カムラというのは、「原子力、放射線という言葉がつくような職業の人々」のことを指しているのではないか。この人は放射線関係の仕事なのですが、事故とは本当は関係がないのに、こういう言葉が使われているということに対して、「馬鹿にされている気がする」ということをおっしゃっていました。

—— ここまでで何分ぐらいかかっているの？

(木村) もうそろそろ終わりですね。

—— 次に書き足す時間がないですね。

—— 結構かかりますね。元々の計画だと、付け足すのでしょうか。

—— でも、ストップしているところもあったから、ロスタイムを集めれば 3 分くらいはあるんじゃないですか。

(サブ F) では、もう残り 3 分くらいになりましたけれども、ここにプラスアルファの意見があったら書いてもらうようにしましょうか。

(専 F) では残り 3 分になりましたけれども、これに付け足す意見を書いて、貼っていただけませんか。

—— そのときにもう 1 回、市民の方はピンク、専門家の方は黄色と言ったほうがいいですね。もうそのことが頭から薄れているでしょう。

(専 F) 市民の方は名札と同じピンク、専門家の方は名札と同じ黄色の紙に書いて、貼っていただけますか。

(木村) 手法に関することはファシリテーターに任せないで、サブファシリテーターがやったほうがいいと思います。これをファシリテーターにやらせるのは酷だと思います。

(サブF) では市民の方はピンクの付箋、専門家の方は黄色の付箋に書いてください。残り3分なので、時間が短いので、とりあえず1枚書けたら、書いた人から発表するようにお願いします。

(専) 新しい意見がない場合は書かなくていいのですか。

(サブF) それは結構です。ではもう、書けた方から。

(専F) では、書けた方からお願いいたします。ご意見をおっしゃりながら貼っていただけませんか。

(専) はい。では追加で、こんなことを考えました。「金太郎飴のように同じことを言っているような印象」。それから、議論をしても、繰り返し「マニュアルに書いてあることしか言わない」人たちというイメージもあります。

(専F) はい、そちらの方。

(市) ムラに「どんな人がいるのか知りたい」。それから、「会って話を聞いてみたい」。

(専F) ありがとうございます。

(専) 同じ意見の場合は、今シールを貼ってもいいのですか。

(専F) はい。お願いします。

—— そうですね。今出た意見に対して。

今聞かれたけど、サブはそれも言ったほうがいいかもしれない。

—— そうですね。

(サブF) では、これから出る付け足しの意見に対しても、共感した場合にはシールを貼ってください。

—— やることが山ほどあって、忘れそう。

サブのマニュアルを共通にしておかないと。ここの班とここの班で全然スタッフのやる
ことが違っていたりするとまずいですよね。

(専F) 他にいかがでしょうか。そちらの方。

(市) はい。原子力専門家から聞いたので、なんていうか、「あきらめ」というのをすご
く感じているのと。あとは「理不尽な世界」というのを持っています。

(市) すみません、「あきらめ」というのは、何のあきらめですか。

(市) 専門家が自分で「原子カムラ」と言っているのですけれども、なんか、変わらない
世界というあきらめ。

(市) その世界が変わらないということ。

(市) そうです。

(市) 言われることをあきらめているという意味ではなくて。

(専) 質問していいですか。「理不尽」というのは、何に対して理不尽なのですか。

(市) 自分たちの世界のシステムが、だから、前近代的、

(残専) 世界というのは？

(市) ムラの中が、

(専F) ムラの中のことをおっしゃっているのですか。それは(専門家から)聞いた話で
すか。

(市) その人の話している表現というか、言葉。

(専F) それに納得なさったと。

(市) 納得というか、「原子カムラとはなんだろうか」と書いてあるので、イメージとし

てそういうことを感じているということです。

—— 「あきらめ」だけだと分からないですね。

—— すごく大事な問題なんだけど、今、ファシリテーターが質問したでしょう。そういうときはサブはどうするの？

—— 困りますよね。でも、こういったらあれだけど、素人ファシリテーターだから、そういうことは当然起こりますよね。

—— それを OK にしていいのですね。

—— それと、今の発言が、すでに（テーマから）外れたところに行っていたから、本当はそれをストップさせるのか、どうなのか。

（木村） 今の質問は、ファシリテーターの意思としては、先ほど習ったコミュニケーションルールを使ってみたつもりなのです。だから、どうしようかなと思うのですが。

—— 私が発言するときに、4つの分類を意識した言葉にしたほうがいいのか。その辺はどうなのかと思って、ちょっと書いてみたのですが。

—— いや、ファシリテーターが質問するとしたら、サブの人が言う話かもしれないけれども、先ほど講義で聞いた4つの分類のうちのどこに属するお話なのでしょうかと。

—— でも、そういう話になったら、3分では到底終わらないですよ。これは3班全部同時に変わるものだから、時間厳守は大切だと思うのですよ。

—— そうすると、4つの分類を意識して話しましょうという話を最初に講義で受けるじゃないですか。それとこれをどうやってリンクさせていくのかなと。

—— というか、その前に「原子カムラとはなんだろうか」というテーマに対して、少し外れたものを書いているのですよ。

その時点で、「これは少しテーマとは違う話題なので」ということでポストイットを外してしまうのか。それとも、どういう意味ですかと確認して、『『変わらない世界への』あきらめ』というように、言葉を追加するのか。

—— 「これは、今日のテーマから少し外れますから、別のところに貼りましょう」というのはどうですか。

—— そうすると気の毒じゃないですか。その人がへこんでしまう気がします。

—— いや、だから、外してしまうとへこむ気がしたので。「今日のメインテーマとは離れますけれども、非常に貴重なご意見ですので、ちょっと別枠になりますけど、貼っておきましょう」と。

(木村) そこまでするのはファシリテーターにはできないですね。

おそらく、少し外れたなと思ったら、サブファシリテーターが「この意味は何ですか」とほんわりと聞いて、テーマに合うように書き直してあげるのがいいのでしょうか。こういうことでしょうか、それを上書きで貼ってあげるほうがいいと思います。

—— そうすると、今「変わらない世界」という言葉を拾ったのですけど。

—— 新しいポストイットでなくていいから、「変わらない世界への」を書き加えればいいと思います。

—— やはり自分が書いたものを外されるのはいやですよ。上書きされるのならいいけれども。

—— 先ほどみたいに、「これは違う」ってばっと外されると、どきっとするかもしれない。

—— もう出す意欲がなくなりますよね。

—— それで、今のポストイットは、専門家から聞いた話ですと言っていて、私は全然テーマから外れた話じゃないと思うけど、この「あきらめ」とか「理不尽な世界」という言葉だけだと皆に通じない。だから、もう少し詳しく説明してくださいと聞いて、その詳しい説明を書いてあげるのがいいと思うのですよ。

「まったく違いますよね」と言ってしまうのは、あまりよくないなと思うのですよね。

—— 気をつけましょう。つい言いそうだから。

—— 外れていても、外れているとは言わないで。

(専 F) お手元の分は？

(専) 私、こういう話も聞いたことがあります。確か、共同通信の連載記事でこういうことが書かれていたことも聞いています。

(サブ F) 読んでもらっていいですか。

(専) 東大の原子力工学科の卒業生のことだけを限定して、名前をつけたと。こういうことを言っている人もいます。

—— 例えばここで、同意はできないのですが、私も聞いたことがあります、だったら、シールなのですか。共感はできないけど、聞いたことはある。

—— 聞いたことがある、は貼らなくていいと思います。

—— それは共感とは違うので、貼らないようにしましょう。

(専 F) それではそろそろ時間になりました。どうもありがとうございました。

—— もう 1 回回るのですよね

そのときに、もう 1 回説明したほうがいいですよ。ここ (名札) に何か書いてあるのでしょうか。「3 番目の番号のところに移ってください」とか。

—— もう名札に書いておくの？ だって、くじ引きで決めるのですよね。

—— くじ引きで決めたものを受付でもらっているのですよ。もう自分が何回目かファシリテーターをするのかも、何番に行くのかも書いてあるわけです。

(木村) そうということが書いてある紙をもらって、それに自分の名前を書いて、名札にすると。

—— だから、次は私がファシリテーターだわって、どきどきしている人もいますからね。

—— 名札の下に書いてあるの？

(木村) 名札の下に順番が書いてあるのです。

—— そのカードをもらって、そこに自分で名前を書くということですか。

(木村) 名前を書いて、名札にする。意味の分からない記号が書いてあるのだけど、なんだろうと思っていたら、グループワークの班分けの番号だったと。

—— それで、赤丸がついている人はファシリテーターです、とかですよ。

(木村) そう。

—— 名前を書いてある紙をもらって、それに番号が書いてあるといかにも運営側が選んだみたいだけど、そうではなくて、何だか分からないけどランダムにもらったということですよ。

(木村) そうです。受付で、ここから適当に持って行ってくださいと。

—— ああ、自分で引いてはいるのですね。

(木村) そう。自分で引いて、それに自分で名前を書いて、名札にする。

—— そうか。そうすると誰がどこに当たるかは分からないわけだ。

—— 専門家と市民だけは分けてあるけども、自分で引くのですね。それ、いいですね。

—— それは公平性がありますよね。

—— あと、2回目で思ったのは、サブファシリテーターは正しい向きから見る必要がないじゃないですか。そういう意味では、サブファシリテーターは文字が逆になる位置に座って、残っている市民、専門家が正しい向きに座ったほうがいいと思います。

なるべく逆向きになる側にファシリテーター、サブファシリテーターを配置して。

—— そうですね。あと、シールはポストイットの下側に貼ったほうがあとで見やすいと思うのですよ。

—— では、シールを貼る位置は、なるべく下のほうに貼りましょう。

— なるべく下のほうに貼ったほうが、ぱっと見たときに目につくと思うのですよね。だから、参加者にはなるべく文字が正しく見える位置に座ってもらって、シールを下側に貼ってもらうほうがいいと思います。

— そうすると、最初からファシリテーターにそこに座っていただいて。

— そうですね。

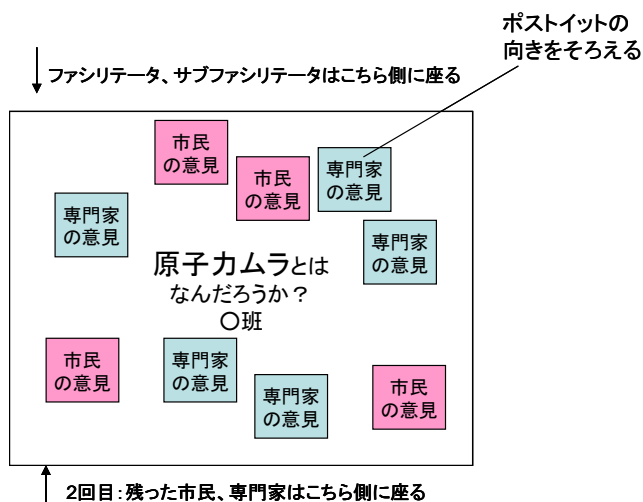
— でも、読みにくくない？

— いや、残っている人はこちら（正しい向きの場所）に。

— サブとファシリテーターがそちら（逆向きの場所）にいるということね。

あと、市民と専門家のポストイットは、バラバラの位置に貼ってあったほうがいいですか。

— 2回目まではそのときに座っていた順番で貼ってもらって、ミックスな感じでもいいんじゃないですか。



決定した方式(1、2回目)

— さて、3回目が大変ですよ。

【3回目】

役割：市民（市）、専門家（専）、ファシリテーター（F）、サブファシリテーター（サブF）
同じグループに残った人（残）

役割はシャッフルし、かつ、残った人以外は2回目の議論を知らないという前提で行った。

—— それでは、メンバーをチェンジして、なんとなく互い違いに座ってもらいました。

（サブF） では、皆さんお手元に、名札の色と同じ色のシールがあるか確かめてください。違っていたら交換してください。

—— 3回目はシールは要らないでしょう。

出てきている思いや考えを整理する。似ている思いや考えをグループ化し、なぜそのようなグループが出てきたのか、また、それぞれの関係性を考えてもらう。原子カムラが何か発表することをまとめてもらう。

—— まずは名前の紹介から入るのかな。

（サブF） では、まずメンバーが変わりましたので、お名前だけ紹介するようにしましょう。

（市F） 皆さん、メンバーが変わりましたので、お名前だけお願いします。

（自己紹介：略）

（サブF） では、3回目はこれを整理することになりますので、

（木村） いや、整理することではなくて、これを見て、深掘りしていくという話になったので。

—— なので、まず紙を配る。1回で最低2枚か3枚。

—— このグループでポストイットの中身が分かっている人は、この2人だけです。他の人は、戻ってくる人もいるのかな。

（木村） 1回目の人が戻っている可能性もあります。

(サブF) では、最初に、ここに貼ってあるものを、残っている方が2人いますから、説明していただけますでしょうか。

(市F) 何を説明してもらえますか。
ってたぶん言うと思うんですけど。

—— でも、2回目で同じことを体験しているでしょう。

—— 「2回目と同じように」と言ったほうがいいのではないですか。

(サブF) 2回目と同じように、市民で残られている方から、このピンクの付箋を1枚1枚読み上げていただけますでしょうか。

(市F) 前と同じにすればいいのですね。

(専) そのときにシールを貼ってもいいのですか。

(サブF) 今回はシールは貼らないということで。

—— そうすると、またこれを全部読み上げたら時間が。

(木村) それで終わりますよね。

—— 終わりますよね。で、読み上げて何をやるのですか、私たちは。

—— 先ほどの経験でいうと、読み上げるともうほとんど時間がない。シールを貼らなくても半分以上終わってしまうので。3回目は組み換えをやるわけだから、

—— じゃあ、残っている人に、まずピンクと黄色で分けて、貼りなおしてもらおうというのはどうですか。

—— 同じ意見でまとめるのですか。それとも、ピンクと黄色で分けてもらう？

(木村) いや、3回目はグルーピングをしないことになったので。

—— ああ、深堀りでしたね。

—— 深堀りをして、ポストイットにしっぽをつけていくという話ですよ。

—— 自分が共感した意見に対して、どう思うかを書くということですよ。

—— 貼るスペースがないですね。

—— 例えばたくさんシールがついているポストイットだけ取り出して、これを書いた人、あるいはこれに共感している人の、ご自分が思っている背景を書いてみる、とかにしないと、時間がないですよ。

それか、この中で一番書きたいと思うものについて書いてもらうか。

—— でも、それは全部読まないといけないから。

—— やはり、似た意見はまとめて貼っておいたほうが分かりやすいですか。

—— まあ、それは分かりやすいよね。

—— グルーピングしないというのはつらいですね。

—— 例えば、この 3 つはほとんど同じですよ。「原発のあるところ」「発電所のことだ」と思う」「立地しているところ」。

—— そうすると、ここに何があるか分かっている人は、残っている 2 人と、サブ 2 人で、4 人いるわけじゃないですか。皆が移動している間に、さっとそれを貼り換えてしまうというのは、駄目ですか。

—— やはりそうしたほうが見やすいと思うのですよね。

(木村) 見やすいけど、誘導になるのです。だから本来ファシリテーションをするときは、貼り換えるにしても、自分たちでやってもらわなければいけない。

やるとしたら、もう 1 枚模造紙を用意しておいて、「この中で、シールの多いものを取り出してみましょう」。その作業から始めるのでしょね。

—— 皆で共有しながら、これですね、これですね、と貼り換えていく。

(木村) そうやって貼り換えていくのいいかな。ただ、これ(元の模造紙の形)が壊れてしまうのですよね。貼り換えないとスペースがないし。

—— でも、この下(模造紙からはみ出して)に背景を貼ればいいじゃないですか。シールが多いものをいくつか取って模造紙の下側に貼って、その下に皆が書いたものを貼っていけばいい。そうすれば、上もあまり壊れずに済む。

—— それか、模造紙を2枚連続みたいな感じにする？

—— でも、ポストイットの位置って、あまり意味がないですか。座っている位置で貼っているのだから。

例えば、シールが多いものをいくつか下側に貼って、この言葉から見える背景とか、自分が考えたもの、感じたものを書いてみましょう、どうですか。

—— シールが3つ貼ってあるのは、多いよね。

(木村) そうですね。シールが3つくらい貼ってあるものを取り出せばいいと思います。出てくるのが5、6個ぐらいになるようにしたほうがいいと思うのですよね。

—— それで、「これについて」というと書けない人もいるから、いくつか出てきた候補から好きに選んでいただいて、書いて、ここに貼りましょう、どうですか。

(木村) それをテープでつなげていけば、凧みたいなものができて。それを最後にホワイトボードに貼って、発表すればいいですよね。

—— それでは、まずシールが多いポストイットを下に取り出しましょう。皆さんで、好きな項目について、その背景について、思いついたことを、今お配りしたメモ用紙に書いて、出していただけますか。こんな感じでしょうか。

—— 「背景」という言葉が分かりにくいかもしれませんね。

—— どうしてこう感じたか、その理由とか。

—— そうですね。共感しているのだから。

—— それを書いていただけますか。それで、分からなさそうな顔をしていたら、例えばそういう言葉を何で聞いたか、見たか、誰から聞いたか、そういうことで結構ですと言えば、書けるんじゃないかな。でも、なんとなく感じるというのが多いかも。

—— それでもいいんじゃない。何でもいいですよ。

(木村) 「なんとなく」は十分な理由になるので。

—— それで、1つに対して1枚書いてください、というのを言わないといけませんよね。

—— そうじゃなくて、この中からご自分がこれと思うものをいくつか。書きたい人は全部書いてもいい。まあ、時間の制限があるけど。

—— いや、1枚の紙に書くのは、1つのテーマです、ということですよ。

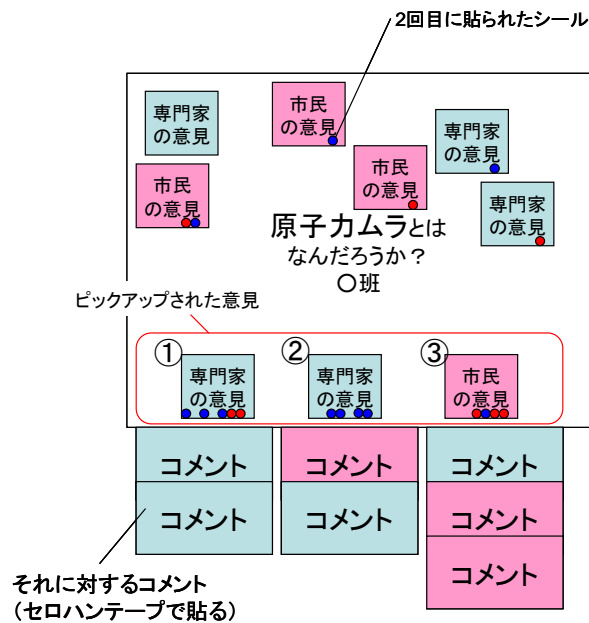
—— そう。それを言わないといけませんでしょう。1つのテーマに対して1枚でお願いしますと。何枚書いてもいいですよ。

—— これ(A4の半分の紙)はやはり大きいですね。

—— その半分でもいいかもしれないですね。

—— でも、大きい文字で書いてもらいたいんじゃないの。

—— そうです。ボールペンならこれでいいけど、太いマジックだから。



決定した方式(3回目)

(サブF) では、縦に使ってもらっていいですか。ここに6個出ていますので、スペース的な問題がありますので。

(市) 紙は縦にするけど、横書きでいいのですね。

(サブF) 縦に使って、横書きをお願いします。

—— 何分です、も言ったほうがいいのか。

—— そうすると、こちらから見るのはかなりつらいですね。

—— だから、見にくい位置に座るのはファシリテーターとサブにするのでしょうか。
ただファシリテーターも書いていいんじゃないの？

—— そうです。

(サブF) 見にくかったら、そちら側に回って見ていただいても結構です。

(市F) はい。ちょっと立ってみます。

(市) これは連想する言葉でもいいのですか。

(木村) 連想の方法が違うから、連想は駄目でしょうね。

—— じゃあ、連想はやめます。

(記入)

—— 選ばれた中に共感するものがなかったらどうしよう。

—— そうしたら、この中から何か選んで書いてもらうとか。

—— もし共感するものがなかったら、他のところから選んで書いてくださいと。

—— そうですね。選んで書いていただいても結構ですと。

—— それとも、出ているものについて感想を書けばいいのかな。どちらがいいですか。

—— でも、共感しないものを書くのは微妙だから、共感するものを選んだほうがいいですよ。

(サブF) ここに共感するものが選ばれてなかったのですね。

(市F) そうなのですね。どうしたらいいですか。

—— どうしますか。そのときはこの中から1枚選ぶことにしますか。

—— そういう人がいるかもしれませんよね。

—— そうしたら、他のグループを見て、ご自分の書いたものが選ばれていたら、そこで書いてください、でいいんじゃないの？

—— 他のグループに貼りにいくということ？

—— 「残っているものにあるから、書いていいですか」と聞くのかなと思ったけど。

—— 例えば、「これなら私は共感できるんですけど」と言ったとするじゃないですか。そうしたら？

—— それも候補に入れればいいんじゃないですか。

—— じゃあ、他の班に行かなくてもいいんだ。

(サブF) これらの候補には共感するものがないそうですけれども、ここにある中にはありますか。

(市F) これは共感できます。

(サブF) これですか。では、これもここ(下)に入れます。

(市) すみません、これとこれと両方に関係すると思うのですが、それはどちらに貼ったらいいですか。

(木村) それは2枚書いてもらいましょう。

(サブF) 2枚書いてください。

(残専) はい。書き終わりました。

—— その下に貼ってください、は言わないでいいの？

(サブF) では、その下に貼っていきましょう。ではセロテープを回してください。貼っていただいていいですか。お願いします。

同じところにまた別の方が書きましたら、その下に続けて貼って行ってください。

—— 貼るときは、読まないでいいのですか。

(木村) 読んで貼ったほうがいい気がするのですが、どうですか。

—— では、勝手に貼らないで、時間が来たら貼るようにしたらどうですか。

(木村) やはり時間をとって。

(サブF) では、ファシリテーターさん、時間を区切って書いてもらうようにしましょうか。10分取りますか。

(木村) 10分くらいとっていい気がしますね。

(市F) では皆さん、今から10分で書いてください。お願いします。

(記入)

(残専) 黙々と貼るわけですね。

(サブF) 今はまだ貼らないで、まずは書いてください。1つの付箋に対して1枚使ってください。いくつに対して書いてもいいですけど、1つの付箋に対して1枚ずつ書いてください。

(記入)

—— やはりリハーサルをやっておいてよかったですね。ぶっつけ本番だったら大変だった。

—— ではリハーサルなので、10分経ちました、ということにしましょう。

(市F) 皆さん、10分経ちました。書き終わりましたか。

(サブF) では1人ずつ読み上げていただいて、貼ってもらいましょうか。

(市F) ではそちらの市民の方からどうぞお願いします。読み上げてください。

(サブF) どれに関係するか言っていただいて。

(市) 私が書いたのは、福島事故で、

(市F) まず、どれに対してでしょうか。

(市) どれでしょうね、どれでも使えると思ったのですが、これにしてみようかなと

思いました。

(サブF) 「原子力の専門家に対する蔑視」というものに対して。

—— そのとき、サブの1人がこちら側に来るなりして、セロテープを持って貼ったほうがいいのではないですか。

—— すみません、記録の立場からの発言なのですけれども、今、市民の方が「これ」と言ったときに、サブファシリテーターさんが言い直してくれましたよね。あれは大変ありがたいですので、徹底していただければと思います。

—— そうですよ。指示語は分からないのですよね。

—— だから、下側に貼られたときに、番号をつけたほうがいい気がするのですよね。右から①、②、③って。

—— ああ、①とか②とかでも言えるわけですね。

—— そう。いちいち言わなくていいように、ポストイットを選び出したときに、ここに①、②、③と書く。

(木村) サブファシリテーターは、固まっているのではなくて、やはり分散していないといけないかなという気がしますね。

—— 特に3回目のグループワークは分散して、気をきかせて動かないといけないですよ。ね。

まず、ポストイットを選んだ時点で、左から番号を振るということを統一しましょうよ。

(木村) あとは、サブファシリテーターは座ると何もできないので、輪から抜けていたほうがいいのかもかもしれません。1回目のときも、ポストイットの貼る位置が偏ったじゃないですか。ああいうのも場所が平均的になるようにならしたり。

参加者はここに座っていて、サブは少し引いたところにいながらやったほうがいいのかも。しれない。

—— 通常のワークショップだと、こういう位置で上から見ているのがNGだということ。を散々言われたりするのですけど、それは構わないですか。

(木村) 頑張って、立ったり座ったりすると。

— そのときだけちょっと立つと。

それで、記録している人のために、サブが「①ですね」と言ったほうがいいですよ。

— 例えば先ほどのだったら、

「⑤の「原子力の専門家に対する蔑視」についてですね。」

ここまで言ったほうがいいでしょう。横の人だって見えにくいから。

— 言ったほうがいい。

— それで、「いくつかにまたがるのでしたら、そこに番号を書き入れましょうか」と。

— いや、私は、いくつかにまたがるけど、同じようなことを 3 つ書いたりしているのです。

— そういう話でしたよね。それぞれについて書いてくださいと。

— 1枚に1つですよ。

(市) 私は⑤「原子力専門家に対する蔑視」というのに書いてみました。福島でマイナスイメージが強くなったということと。悪者探しのようなイメージがある。そして、分かり合えない壁を感じました。

(市F) 次に、そちらの専門家の方、お願いします。

(専) すみません、ずっと思っていたのですが、②と③と④と⑤って、全体に関連してしまっているんで、どれにつけたらいいかわからないんですけど、どうしたらいいでしょうか。

— 一番近いところにつけるのでしょね。

(サブF) 一番近いところをお願いします。

(専) じゃあそうですね、④です。

(サブF) ④「マスコミがよく使うことば」ということですね。

(専) そうですね。ムラという言葉を使うことで、いわゆるエリート臭のする集団を色眼鏡で見ているのではないか。

(市F) では次に、そちらの市民の方、お願いします。

(残市) ④「マスコミがよく使うことば」の部分は、自分では3.11後にテレビ、ラジオでよく聞き、なんとなくマイナスのイメージで使われていると思うけれども、実際はよく分からない。

それから、⑥「3.11後にたくさん使われるようになった」というのも、同じように、マスコミ、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、特にインターネットでよく使われているように思います。特にインターネットではひどい言い方をしているように感じます。

それから⑤「原子力の専門家に対する蔑視」の部分では、マイナスのイメージで使われている。特にカタカナのムラを使うので、特にそう感じます。以上です。

(市F) では次に、そちらの専門家の方、お願いします。

(残専) 私は②「レッテル貼り」についてですが、原子力の予算が多いことに対するひがみが背景にあるのではないかと思います。

それから、⑤「専門家に対する蔑視」についての私の意見ですが、原子力の専門家の言葉が理解しにくいことが根本原因にあるのではないかと思います。

(市F) 次にそちらの市民の方、お願いします。

(市) まず①はすごく分かりやすく、放射線、

(サブF) 「男性が多い(女性が少ない)」ということですね。

(市) はい。テレビを見ている、放射線の専門家は女性を見たことがあるんですけど、原子力全般ではあまり女性が出てこないなということを実感として思っています。

それから、⑦なのですけれども、3.11の事故に対する専門家の説明を、テレビとかのマスコミで、直接お話をされているのを伺っていると、とても歯切れが悪くて、本当によく分からないのかもしれないのだけれども、どこまで言っているのか分からないというような躊躇も多々感じるがありました。

(サブF) ⑦は「しがらみがある」と。

(市F) では次の方、お願いします。

(専) ③「差別用語でないか」に対して、やはりマスコミが使う表現に基本的に悪口が多いということ。あとは、先ほどおっしゃっていたように、カタカナのムラというのに独特の雰囲気があるなということを感じました。

あと、①に関して、まあ私は専門家、学会員なのですがけれども、男性が多いというのはまったくその通り、事実であるということです。

(市F) 最後に私です。①「男性が多い」というところに関して、感想みたいになってしまうのですが、男性が全て同じとは思いませんけど、社会に出て責任があったり、制約のある人が多いと思います。住居は多様な環境に住み生活なさっているのですけれども、多様な意見や見方ができないグループだと思えます。

はい、皆さんの意見が出ましたが。

—— ちょうど時間くらいですね。

—— ここが結構時間がかかりますね。

(木村) でも、今くらい丁寧にやっていったほうが、共有はその場ですぐされていきま
すよね。

—— 結構、満足感がありませんか。

—— ありました。

—— 頭の中がまとまる感じがしますね。

—— このグループだからこの時間でできたのか。

—— そこが問題なのですよ。

(木村) こんなに（意見が）出てきたのも、そうかもしれない。

—— でも、番号を振ったほうがいいとか、指示語はやめてというのを織り交ぜながら 20 分で終わったわけですね。

—— でも、10 分時間を取るところを、10 分待たないで始めていますから。

—— そうか。

(木村) でも、これだったら発表するときにそのまま貼れますね。

—— 貼りだして、読んでもらってもいいのですよね。興味のあるところを読んでもらったほうがいいかもしれない。

—— ああ、貼りだしておいて、全員自由に回って見るということですね。

—— そう。

—— それで、この後は何をやるんだっけ。これを貼りだして、

(木村) 貼りだして、発表して、それについて意見をもらう。

—— 質問が出るかもしれないですね。

(木村) 出るかもしれない。

—— 誰が発表するのですか。

(木村) ああ、それも決めなければいけないのか。

—— 4 番目のファシリテーターにしておけば？

(木村) 発表する人もこっちで決めておく？

—— それは厳しくない？

—— サブが発表したほうが的確な気はする。ずっと聞いているから。ただ、本当は参加者のほうがいいですね。

—— それだったら、3回目のファシリテーターに発表してもらって、サブはつかえてしまったときのために控えているというのはどうですか。

—— どれを発表すればいいのですか。これを読んでもらえばいいのかな。

(木村) 下に貼った紙を読んでもらえばいいと思います。

—— このグループでピックアップしたのはこの7枚です。まず7枚のタイトルを読んで、それについての出てきた背景のご意見を紹介しますと。

—— 発表もやってみましょうか。

(木村) では、貼ってみましょう。

—— 発表の時間も決まっているのですか。

—— 決まっていますよ。8分かける3。

(木村) 発表が5分で質疑が3分ですね。

【全体共有（発表）】

(ホワイトボードに貼る)

—— このホワイトボードに貼る時間は、プログラムに入れていないのですよね。さっと貼って、さっと発表です、みたいになると思うけど、これを見ましょうというのをしようとすると、5分ぐらいとらないと。

—— 読み上げるなら見なくてもいいかな。

(木村) 20人だと、模造紙の周りに集まるのは無理ですね。

—— 今は10人くらいだから見れるけれども。

(木村) 倍はきついんですね。

—— では、発表もやってみませんか。

(木村) では、発表もやってみましょう。

(市 F) 読み上げるんですね。私たちの班はシールが多いものを6つ、それからお一方が共感するものがなかったというのでもう1つ選びました。

①「男性が多い(女性がいない)」ということに関しては、「原子力専門の女性をマスコミで見たことがない」。「まったくそのとおりである。事実」。「男性が全て同じとは思いませんが、社会に出て責任や制約のある人が多いと思います。多様な環境に生活しながら、多様な見方ができない集団と思います」。

②「反対派の人がつけたレッテル貼り」。ご意見としては、「原子力の予算が多いことに対するひがみが背景にあるのではないか」。

③「差別用語でないか」。「マスコミが使う表現は悪口が多い。カタカナの「ムラ」が独特の雰囲気がある」。

④「マスコミがよく使うことば」。「ムラという言葉を使うことで、いわゆるエリート臭のする集団を色眼鏡で見ている」。「3.11後にテレビ、ラジオでよく聞き、なんとなくマイナスのイメージで使われていると思うがよくわからない」。

⑤「原子力の専門家に対する蔑視」。「福島事故で原子力のマイナスイメージが強くなった。悪者探しのようイメージがある。分かり合えない壁を感じます」。「マイナスのイメージで使われている。特にカタカナのムラを使うので」。「原子力の専門家の言葉が理解しにくいことが根本原因ではないか」。

⑥「3.11後にたくさん使われるようになった」。「マスコミ、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットで使われている。特にインターネットではひどい言い方をしている」。

⑦「しがらみがある」。「3.11事故に対する専門家の説明の歯切れが悪く感じた」。以上です。

—— このときに、シールを貼ったことは何も触れなくていいですか。シールはとりあえず選ぶための材料ということで。

—— シールの貼ってある数とか。

—— 数とか、市民と専門家が混在しているとか。それは最後に集計して分析すればいいことだけど、発表のときには言わなくていいですか。とりあえずこれはカードを引き出すための数として見れば。

(木村) 発表のときは、そこまで話してくれという混乱するような気がするのです。

—— 例えば、3つずつですね、みたいなことは参加者から言ってもいいのですか。

(木村) それは言ってもいいです。意見、質問、感想をもらえばいいのですね。

—— 木村先生、最後の紙は、専門家と市民と色を変えなくていいのですか。

(木村) それは変えたほうがいいですか。どちらが書いたか分かったほうがよければ。

—— やはりカラーの用紙で、水色とピンクにしておいたらどうですか。

—— そうですね。

—— 水色（専門家）のポストイットに対して水色の人が共感していて、ピンク（市民）のポストイットにピンクの紙がつけば、なんだ、やはり全然意見が分かれているんだな、って思うかもしれないし。

—— 見やすくいいですね。

—— あるいは混在していれば、同じなのかなって。壁がないのかなってなるかもしれないし。

(木村) その辺りについては、総合ファシリテーターが話すという手はありますね。質問がなかったりしたら、「この意見は元々は市民の方が出したみたいですけど、そこに対しての意見は専門家も市民もいっぱい出ていますけど、これはどういうことなんですか」と聞いて、書いた人に少し説明してもらおうとか。

—— すみません、私は今、3回目の続きでファシリテーターとして出ているのですけれども、この次に私は何をやるのか全然分からずに来ているのですね。だから、読み上げてくださと言われるから読み上げることはするのですけれども、その後は何をしたいかが分からない。

—— 読み上げたら、「〇班さん、ありがとうございました」って、総合ファシリテーターが言いますよね。

—— その後は総合ファシリテーターに任せばいいわけですね。読み上げる役だけでいい。

—— でも、その後に質問があるから、その間はそこに立っていてもらうことになるんじゃないかな。

(木村) グループ全員に出てもらえばいいんじゃないですか。

—— もうひとつは、ファシリテーターが説明をしなければいけないということを、3回目のグループワークのテーブルにいた段階で分かっているならば、また違うんじゃないですか。

—— ああ、分からないところを質問するということですか。

—— そう。それはこういう意味で理解してよろしいですか、くらいのことをするかもしれない。

(木村) 元の席に戻って、続きを議論しましょうか。人があちこちに散りすぎていて何を言っているかよく分からないので。

これはまた、なかなか、

—— 面白いね。本当にこんなにうまくいくんだろうかって (笑)。

(木村) でも、この方式だったら誰の意見も否定しないし、自分の言ったことは全部フォローされるし、悪くないですね。それなりに定量的にもピックアップされているし、ちゃんとそれっぽい構造にもなっているし、悪くないかもしれないですね。

—— ただ、下に7つも出てきたから結構皆が意見を出しやすかったけれども、これが2つとか3つしかないと、意見が出しづらいかもしれない。

—— いや、これは出ると思います。

—— 下に並べる数は決めなくて大丈夫ですか。

(木村) 5、6個くらいを目安にピックアップしてきて、

—— 貼るスペースを考えたら、最高で7個ですよ。

今、最高になっている。元々6だったけど、ないという人がいたから1つ増えたので。

(木村) だから、5、6個出して、ないという人たちがいると増えるという感じですよ。

—— 10個以上になる可能性もなきにしもあらずかな。

(木村) その場合は選択しないと無理ですね。

—— 8つ以上になるとここに入らないと。そうすると、この上に貼るのかな。

(木村) いや、7つでいいと思います。

—— 最大7つに抑えると。

—— 多いときは、グループの中で選んでもらえばいいと思います。

(木村) そのほうがいいと思います。

—— あまり多いと、どちらにせよ書く時間がないから。

—— そうですね。7つぐらいがいいですね。それを、サブが制限するのではなくて、皆で選んでもらえばいいのでしょうか。

—— 3つぐらいしかなかったら、上から持ってくればいいと。

—— いや、3つなら3つでいいんですよ。

—— 皆がそれでいいといたら、それでいい。

—— 例えば、シールが3つのポストイットに集中して、後はもうなかったりシールが1枚だけだったりしたら、その集中している3つでいいと思うのですよ。

—— 7つを超えたときには、選んでもらえばいいということでしょう。

—— メモ取っていないけど、大丈夫かしら。

(木村) (記録係が) 書いているから大丈夫です。私も一応作っているのですが、全部書いているとはまったく思わないのですよね。まあ、記録を見ながらこちらで整理します。これが、まさに第 1 回目の「ファシリテーターのためのマニュアル」ですよ。コミュニケーション・マニュアルと、計画書と、ファシリテーターのためのマニュアルを作っておくというのが、とりあえず今年度することですね。

でも、第 1 回でこれだけ大変で、第 2 回にちょっと手を込んだことをやろうとしたら、もう大変ですね。

—— 第 2 回は何をやるのですか。これの続編をやるのかな？

(木村) その辺りを第 1 回が終わった後に参加者に聞いて、それを反映したものを設計して、第 2 回をやると。そのために、フォーラムは隔週ですけど、その間に 1 回会議を入れて、そこで検討するのです。模擬はできないですよ。

—— もう模擬はできないですね。ぶっつけ本番ですね。

(木村) でも、第 1 回と第 5 回は同じ手続きでもいいような気がする。そうするともしかしたら、赤と青が混合する様子が見えるかもしれない。

一応今の予定では、来年度、フォーラムが始まる前に 3 回ぐらいは会議ができるはず。来年度からは「フォーラム研究会」という名前にしましたけど。フォーラムをやる前に 3 回ぐらいやろうと思っているので、その間にさらに詰めることは詰めましょう。

で、実は今日はもう時間が来てしまいました。ここまでについて、大丈夫でしょうか。今日やったことは私たちのほうで整理して、少しまとめます。そして次回共有しようと思います。次回、もう 1 回プロセスを見てもらうことになりますね。

—— 下の意見出しの紙についてですけども、ポストイットの横幅に合わせると、B5 の半分がぴったりだから、B5 のカラー用紙を半分に切ればいいんじゃないですか。今の書いている量から考えると、このぐらいの大きさがちょうどいいかなと思います。

(木村) これは間接経費で買えると思うので、水色とピンクの紙を買って、半分にすればいいと思います。

あとはありますか。よろしいでしょうか。では、模擬フォーラムは以上にします。

2. 「フォーラム計画書」の検討

(木村) 2、3は今日はもうできませんが、軽く確認だけします。

「フォーラム計画書」の検討は、今日の模擬フォーラムを受けて、ファシリテーターのためのマニュアルという形にして作りますので、よろしくお願いします。

3. 「コミュニケーション・マニュアル」の検討

(木村) 「コミュニケーション・マニュアル」の検討は、まだ見せられる段階ではないのかな。

(竹中) そうですね。

(木村) たたき台なので、もう少し私と竹中君のほうで詰めたものを次回検討させてもらえればと思います。

4. その他

(木村) 最後になりますけど、F8-6の資料について説明します。今年度の3月には、我々の中で報告書を作ろうとっていて、目次を作っています。第2章が成果内容で、第3章が外部評価、第4章がまとめと今後の展開になります。

四角で囲ってある「フォーラムの設計」という部分がフォーラム検討会議の成果になってきます。2.1がコミュニケーション・フィールドの関連研究整理ということで、これは竹中君がやっていたことを文章に直す。2.2はフォーラムの設計で、これは私が今までの議論を書いていきたいと思います。2.3のフォーラム参加者の決定も私が書く。

下のほうの付録のところ、フォーラム検討系の付録が入っていきますけれども、フォーラムの計画書は、今大石さんが作っているものを採用して。コミュニケーション・マニュアルは竹中君。ファシリテーターのためのマニュアルは、今日の模擬フォーラムを経て作っておこうと思います。このように成果をまとめていく方針ですので、よろしくお願いします。

ということで、今日のお話は以上ですけれども、何かございますか。よろしいでしょうか。

最後に、今後の予定を確認します。次回は2月19日(火)15:00~18:00、場所はここです。このときには土田先生にも来てもらって、フォーラム参加者の確定をまず行なう

ということですね。それから、今日言ったような話も確認を行ないたいということなので、少し時間がないですけど、ちゃっちゃとやっていきたいと思います。

その翌日には業務推進全体会合があります。2月中はそれで終わり、あとは最後に3月22日の午前中にもう一度全体会合があります。このときには先ほどの報告書がある程度出てきて、その報告書を見ながら内容を説明をして、意見をいただくというような形になっています。そんなスケジュールで今年度は業務を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、以上で第8回のフォーラム検討会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

以上